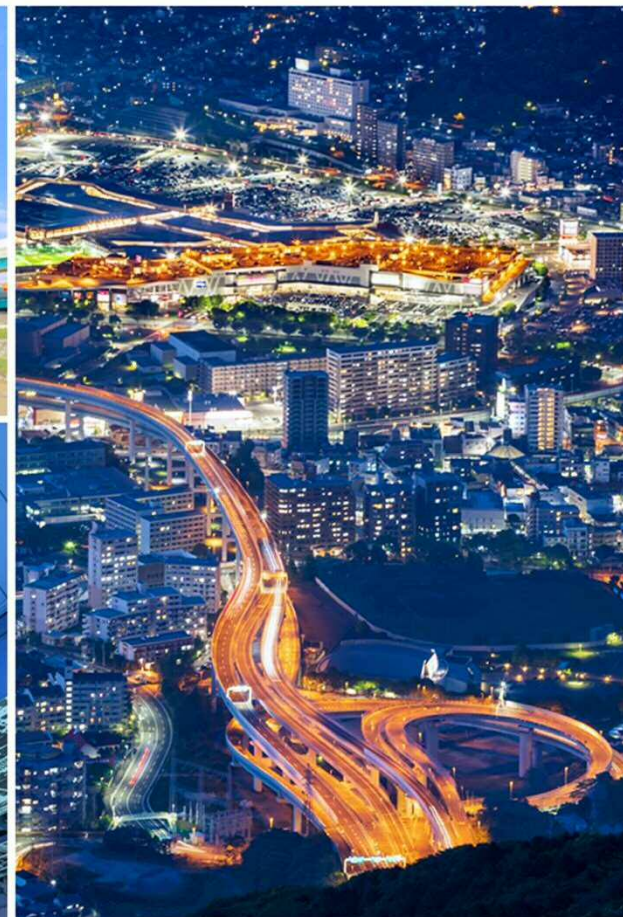
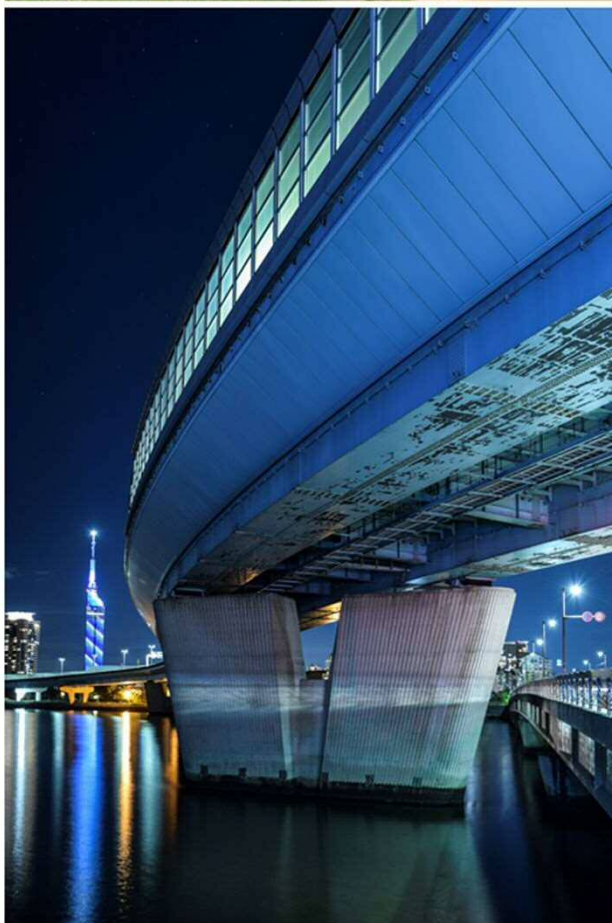




福岡北九州高速道路公社

IR説明資料

令和5年2月



第1部 概要・取り組み

1. 概要	
■ 福岡北九州高速道路公社とは	4
■ 福岡・北九州高速道路ネットワーク	5
■ 有料道路の事業主体と種類	6
■ 基本理念・経営理念	7
■ 主な業務	8
■ 供用延長・通行台数・料金収入の推移(全体)	9
■ 新型コロナウイルスの影響と主な感染拡大防止策について	10
■ 高架下駐車場	11
■ 設立団体及び国との関係	12
■ 一般的な事業の進め方	13
■ 整備計画及び料金認可	14
■ 高速道路建設事業費の推移	15
■ 道路公社の解散	16
2. 公社の取り組み	
■ 公社とSDGsとの関連性	17
■ ネットワーク機能の強化	18
■ 安心のための維持管理	20
■ 安全・快適なサービスの提供	22
■ 大規模災害に備えた取り組み	23
■ 環境負荷軽減に向けた取り組み	24
■ 利用者参加イベント	25

第2部 財務状況・資金調達

1. 財務状況	
■ 会計処理の特徴	27
■ 償還準備金積立方式のしくみ	28
■ 令和3年度損益計算書の概要	29
■ 収支状況(令和3年度決算:損益計算書[道路部門])	30
■ 令和3年度貸借対照表の概要	31
■ 財務状況(令和3年度決算:貸借対照表)	32
■ 償還準備金繰入の推移	33
■ 償還率の推移(平成28～令和3年度)	34
2. 資金調達	
■ 資金調達の概要	35
■ 令和4年度の債券発行額	36
3. 福岡北九州高速道路債券	
■ 金融商品取引法上の取扱い/BISリスクウェイト	37
■ 債務保証の内容	38
4. <参考資料>	
■ 通行台数・料金収入の推移(福岡高速道路)	40
■ 通行台数・料金収入の推移(北九州高速道路)	41
■ 収支状況の推移(平成28～令和3年度)	42
■ キャッシュ・フロー計算書	43
■ 償還計画図	44
■ 令和4年度収入支出予算(事業別)	45
■ 債務残高の推移	46
■ 出資金	47
■ 路線図	48
■ 公社50年のあゆみ	50

第1部

概要・取り組み

1. 概要 福岡北九州高速道路公社とは

- 地方道路公社法に基づき福岡県、福岡市、北九州市により設立された特別法人(昭和46年11月1日設立)
- 福岡・北九州高速道路は、福岡都市圏及び北九州都市圏の交通体系の根幹となるネットワークを形成する指定都市高速道路

福岡・北九州高速道路ネットワーク



公社の管理する
2つの都市高速



九州の有料道路の総延長
1,238.6km

都市高速総延長 **108.8km**
の占める割合は、**約8.8%**

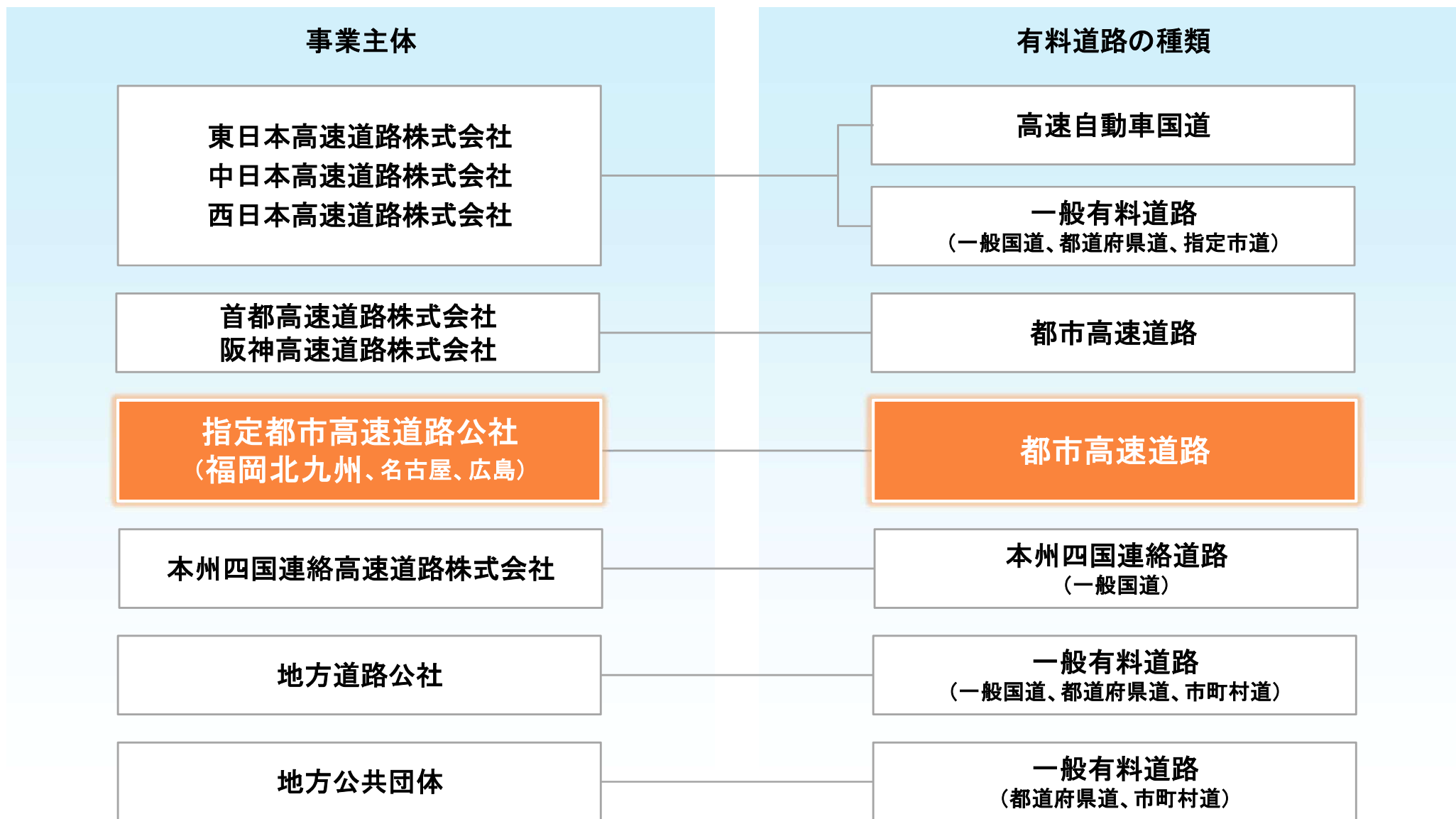
九州の有料道路の利用台数
約101万台/日

都市高速の利用台数
約25万台/日

九州の有料道路利用台数の
約25%が
福岡北九州高速の利用者

注) 九州の有料道路とは、NEXCO管理道路と、公社管理道路を指します。

有料道路の事業主体と種類



基本理念

福岡・北九州両都市圏における安全・円滑な都市高速道路ネットワークを運営することにより、都市圏内外の人と物の交流を促進し、経済の発展、環境の改善及び生活の向上に貢献します

経営理念

お客様第一

お客様に満足いただける、安全・安心・円滑な質の高い都市高速道路サービスを提供します

社会的責任

高い倫理観を持ち、都市高速道路の専門家集団としての総合力を発揮して、お客様や地域の皆様に信頼される組織を目指します

安定した経営

健全かつ効率的な経営により、将来にわたり良好な都市高速道路サービスを提供します

1 指定都市高速道路の新設、改築、維持管理

2 高速道路と密接な関連のある道路の建設、管理

3 高架下施設の管理

供用延長・通行台数・料金収入の推移(全体)

令和3年度

平均通行台数

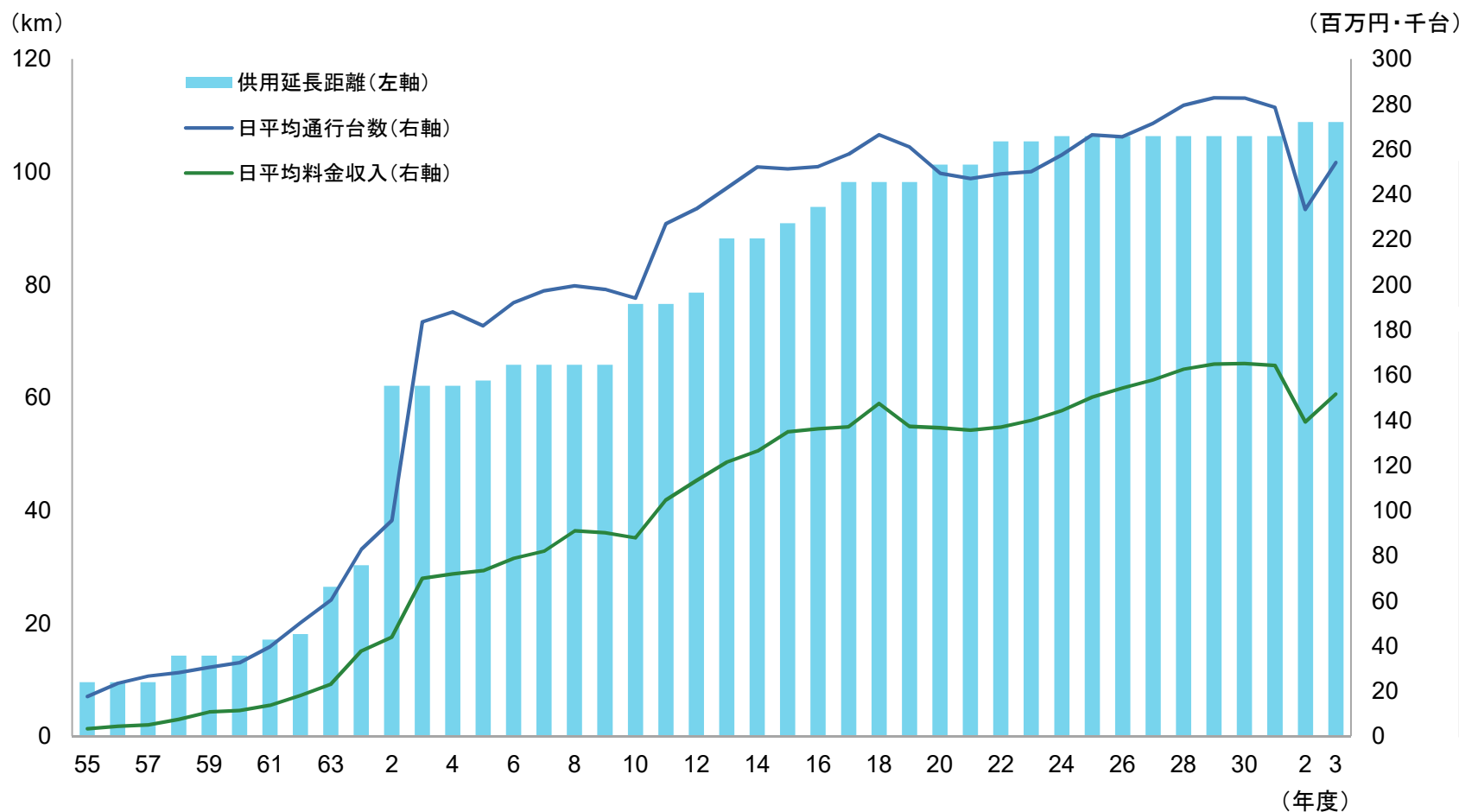
25.4万台/日

平均料金収入

1.5億円/日

料金収入

553億円/年



供用延長距離

108.8km

料金

福岡高速

普通車 **630円**

大型車 **1,260円**

北九州高速

普通車 **520円**

大型車 **1,050円**

新型コロナウイルスの影響と主な感染拡大防止策について

- 公社の交通量も一時的には減少しましたが、着実に回復しています
- 公社では、都市高速が担う物流、緊急輸送ルート等の機能を確保しつつ、お客様、関係先の皆様及び公社職員の感染リスクの軽減を図るため、以下の対策を実施しています

交通量の変化(1日平均通行台数)

交通量は回復傾向が継続

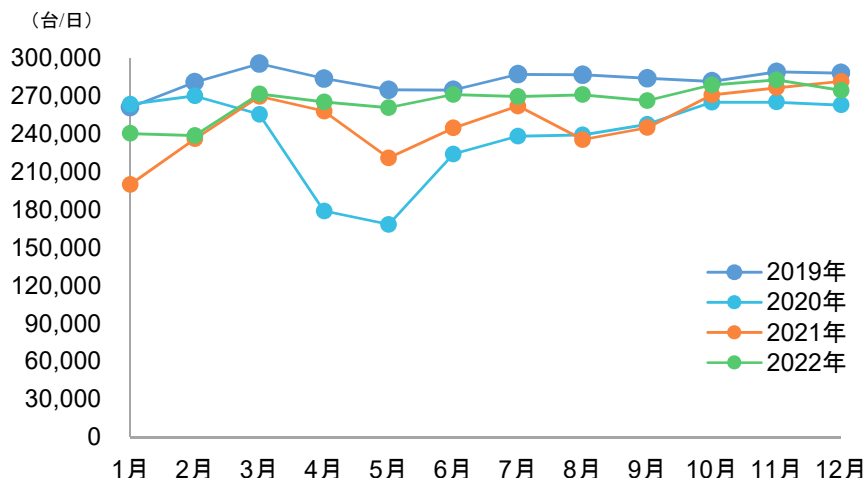
新型コロナウイルスの影響により、2019年比で交通量は減少しましたが、その減少幅は縮小傾向が続いています

最新の通行台数のご案内

当公社(過去からの月次ベース)
<https://www.fk-tosikou.or.jp/kigyo/tsukoudata/tsukoudata.shtml>

<2022 新型コロナウイルス情報>

1/24~2/20 福岡コロナ警報、1/27~2/20 まん延防止等重点措置(福岡)、
2/21~3/6 まん延防止等重点措置の延長(福岡)、3/7~4/7 感染再拡大防止対策期間(福岡)、
4/8~5/31 福岡コロナ警報、7/6~10/5 福岡コロナ警報、7/22~9/13 福岡コロナ特別警報、
12/1~ 福岡オミクロン警報



主な感染拡大防止策

都市高速の機能確保

- 都市高速の機能停止や通行の安全が損なわれることのないよう、「交通管制」「事故対応」「維持補修」「料金收受業務」等に携わる職員、委託業者等の感染防止の徹底
 - マスク着用、手洗い、消毒の徹底
 - テレワーク、時差出勤、小グループ化による接触削減

関係先の皆様(工事業者等)への対応の徹底

- 工事一時中止、工期延期等に関する措置の対応
- 施工中の工事等における感染拡大防止策の徹底等の通知

- 福岡高速道路及び北九州高速道路の高架下の有効利用、ならびに沿線住民へのサービスの一環として、駐車場の運営管理を行っています。

貸付形態 月極・時間貸(コインパーキング)

令和4年4月1日現在

区分	施設数	契約台数	年間収入
福岡 駐車場	35か所	約 1,300台	1.2億円
北九州 駐車場	47か所	約 1,100台	1.1億円
計	82か所	約 2,400台	2.3億円

※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

月極駐車場



時間貸駐車場



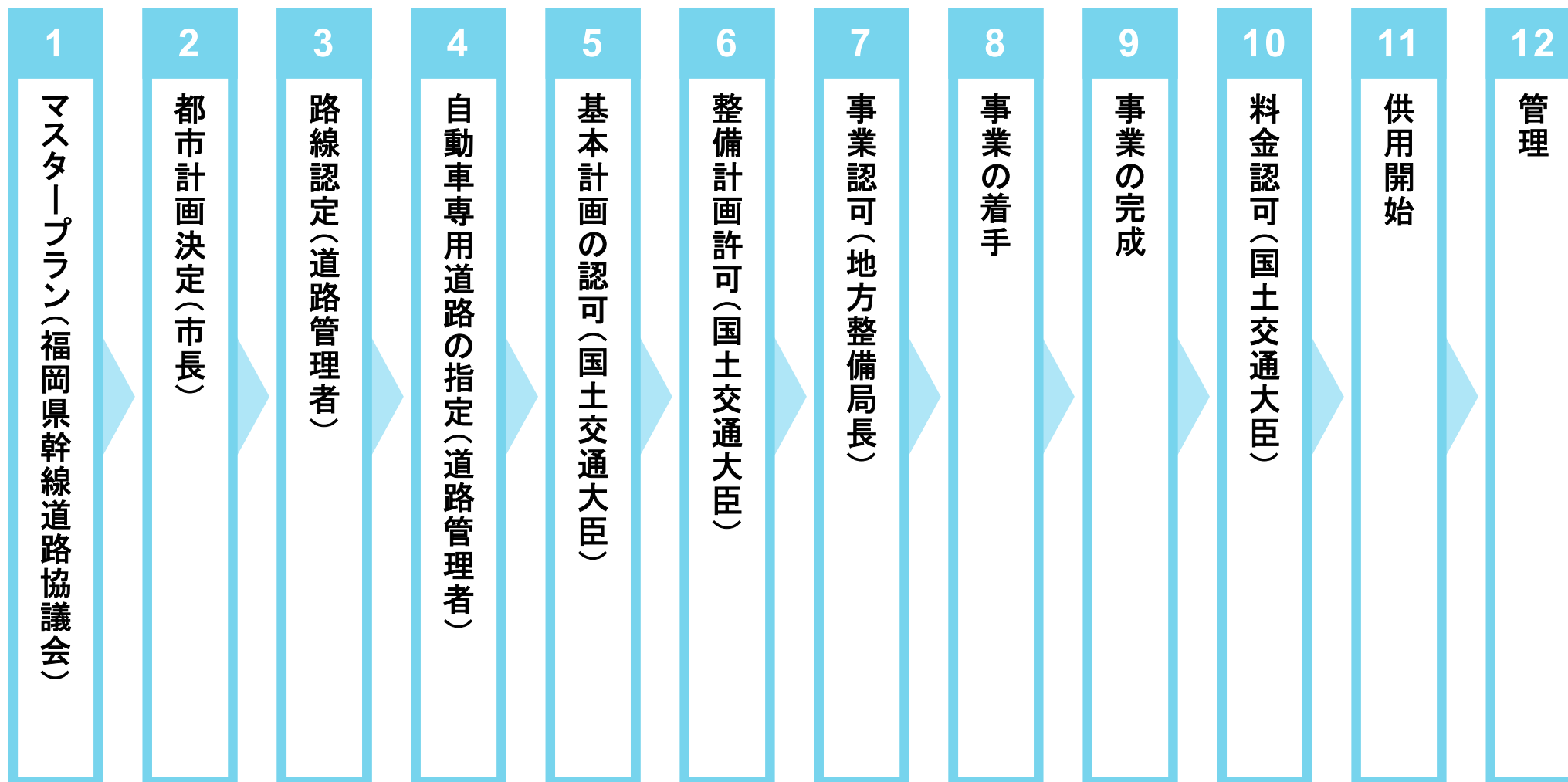
設立団体及び国との関係

地方道路公社法に基づく主な認可、承認	認可者・任命者等
定款及び業務方法書の認可(第5条、第9条、第22条)	国土交通大臣
役員の任命(第13条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
予算、事業計画及び資金計画(第24条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
財務諸表の提出(第26条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
給与、退職手当の支給基準の承認(第32条)	福岡県知事・福岡市長・北九州市長
報告及び検査(第38条)	国土交通大臣又は福岡県知事・福岡市長・北九州市長
監督命令(第39条)	国土交通大臣又は福岡県知事・福岡市長・北九州市長

道路整備特別措置法に基づく許可、認可	許可者・認可者
整備計画に関する許可(第12条 第1項)	国土交通大臣
料金及び料金徴収期間の認可(第13条 第1項)	国土交通大臣

地方道路公社法の定めにより、運営上重要な事項については、
福岡県・福岡市・北九州市及び国の承認等並びに財政的支援を受け事業を遂行

一般的な事業の進め方



整備計画及び料金認可

福岡高速道路

整備計画

- 総事業費9,403億円、全長60.5km。
- 都心と市街地周辺との連結により、都市内の交通混雑の緩和と、都心との連絡強化を図ることを基本方針としています。

料金認可

料金	普通車630円・大型車1,260円
認可年月日	2021年(令和3年) 3月10日
換算起算日	1999年(平成11年) 4月17日
償還終了日	2045年(令和27年) 7月11日 (2022年から約23年後)
償還期間	換算起算日から 47年

※ 1980年10月(最初の供用日)から64年9ヶ月

北九州高速道路

整備計画

- 総事業費3,600億円、全長49.5km。
- 都心と市街地周辺との連結、市内の各拠点間の連絡強化、そして、都市内の交通混雑の緩和を図ることを基本方針としています。

料金認可

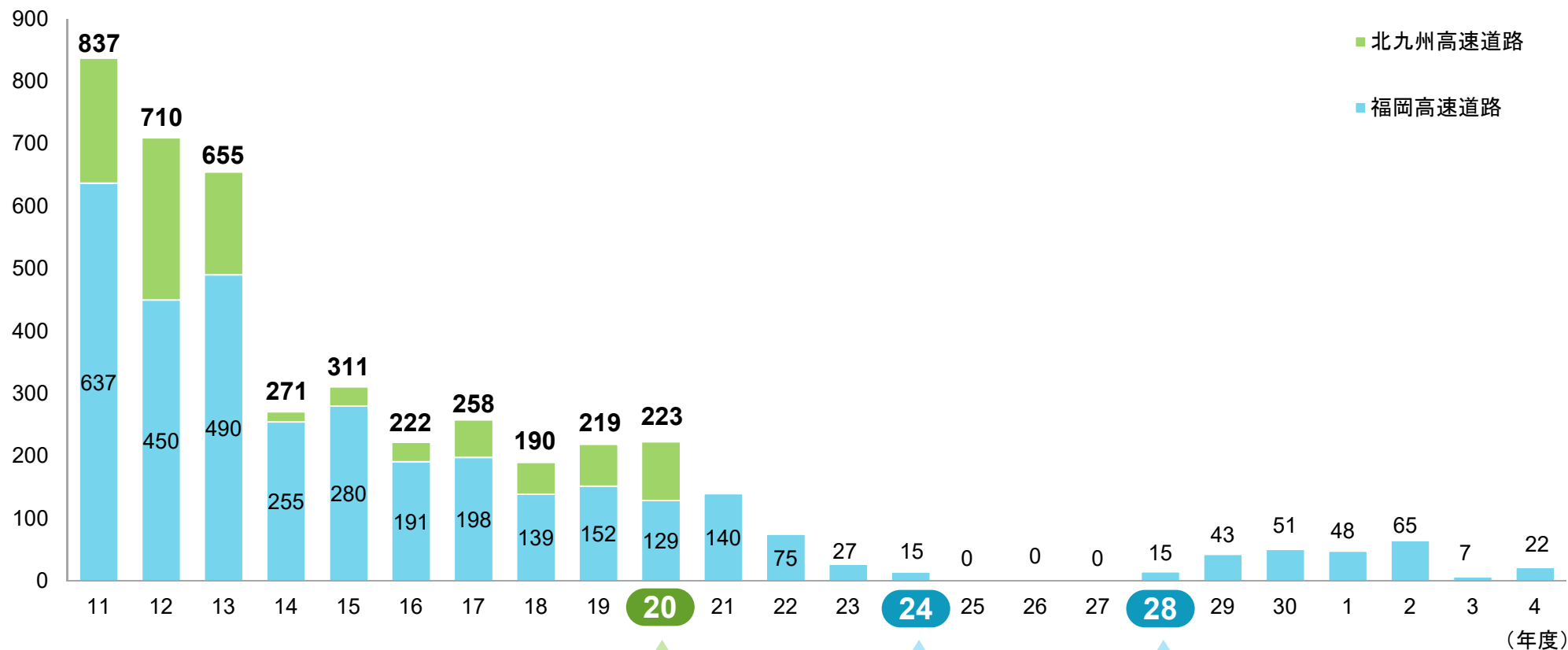
料金	普通車520円・大型車1,050円
認可年月日	2022年(令和4年) 3月28日
換算起算日	1993年(平成5年) 7月14日
償還終了日	2053年(令和35年) 7月13日 (2022年から約31年後)
償還期間	換算起算日から 60年

※ 1980年10月(最初の供用日)から72年9ヶ月

注)「換算起算日」とは、これまでの開通区間の事業費を勘案したネットワーク全体の平均的な開通日のことです

高速道路建設事業費の推移

(億円/年)



北九州高速道路

平成20年度に建設事業は終了しましたが、現在、新しい建設事業の着手を目指して、設立団体等と協議を行いながら手続きを進めています。

福岡高速道路

平成24年度に建設事業が一旦終了しましたが、平成28年度から建設事業を再開しています。

解散

根拠法

地方道路公社法(第34条)

解散

業務の完了により解散

※ 借入金残高がある場合は、債権者の同意が必要

解散の手続き

国土交通大臣の認可・設立団体の
同意・議会の議決

2. 公社の取り組み 公社とSDGsとの関連性

- 公社では、国連で定めた「SDGs(持続可能な開発目標)」の推進に関して、基本理念に基づく事業活動を通じてSDGsの達成に貢献していきます

ネットワーク機能の強化

福岡高速3号線(空港線)延伸

- 整備計画変更許可、都市計画事業認可の手続きを完了し、令和3年7月から、事業に着手した
- 令和4年度は、令和3年度に引き続き、地質調査や測量、設計等を進めるとともに、物件等調査を行い、地権者と協議が整った箇所から用地取得を進めている

北九州高速5号線(戸畑~枝光)の整備

- 設立団体等と協議・調整しながら、早期の事業着手を目指して手続きを進めている

関連するSDGs



安全・快適なサービスの提供

事故・渋滞対策

- すべり止め効果の高い舗装による交通事故防止
- 交通の整流化を図るための車線運用の変更等による渋滞対策
- 誤進入を防ぐ逆走対策

交通情報提供サービス

- 地震交通規制や、交通パトロールによる落下物対策

大規模災害対応

災害対応力の向上

- 重要物流道路・緊急輸送道路としての耐震機能の維持・向上

大規模災害発生時の復旧対応を迅速化

- 災害時の早期復旧を目指した協定締結(国土交通省九州地方整備局や都市高速5団体、民間7団体1企業)
- 安全確保のための通行止め判断と交通機能の早期復旧を目的とした障害物の除去、段差解消等

安心のための維持管理

構造物の維持管理

- 確実な点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクル継続と効率化
- 緊急事象への対応、道路清掃、雪氷対応

老朽化・予防保全対策

- 福岡北九州高速道路公社インフラ長寿命化計画の評価・改定
- 道路構造物の長寿命化を目的とした補修・補強工事の実施

環境負荷軽減に向けた取り組み

高速道路の整備効果

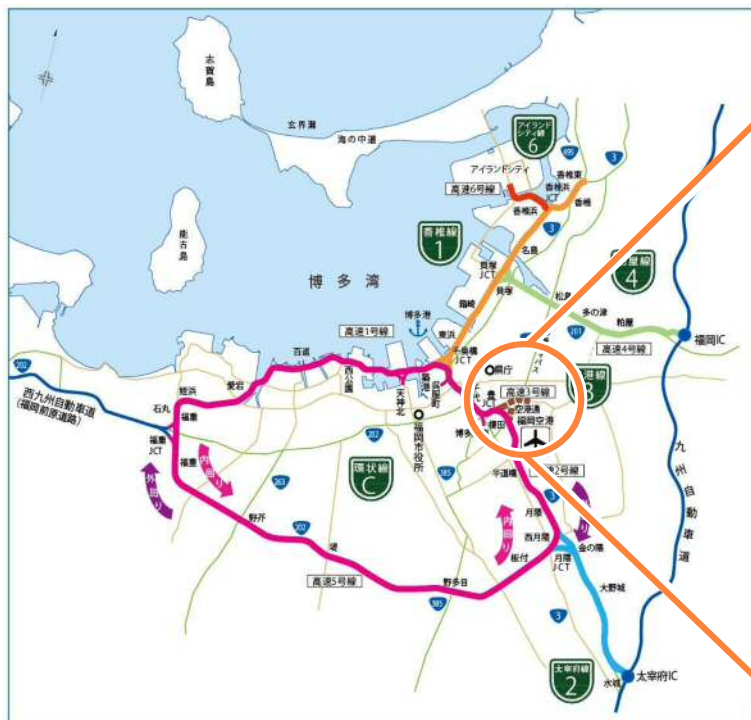
- 都市高速の利用を通じて、一定速度での走行や一般道路の渋滞を緩和することで、CO2排出量の抑制など環境負荷を低減にも貢献

道路照明のLED化

- 道路照明のLED化を推進することにより消費電力量を削減

ネットワーク機能の強化(福岡高速道路)

福岡高速3号線(空港線)延伸

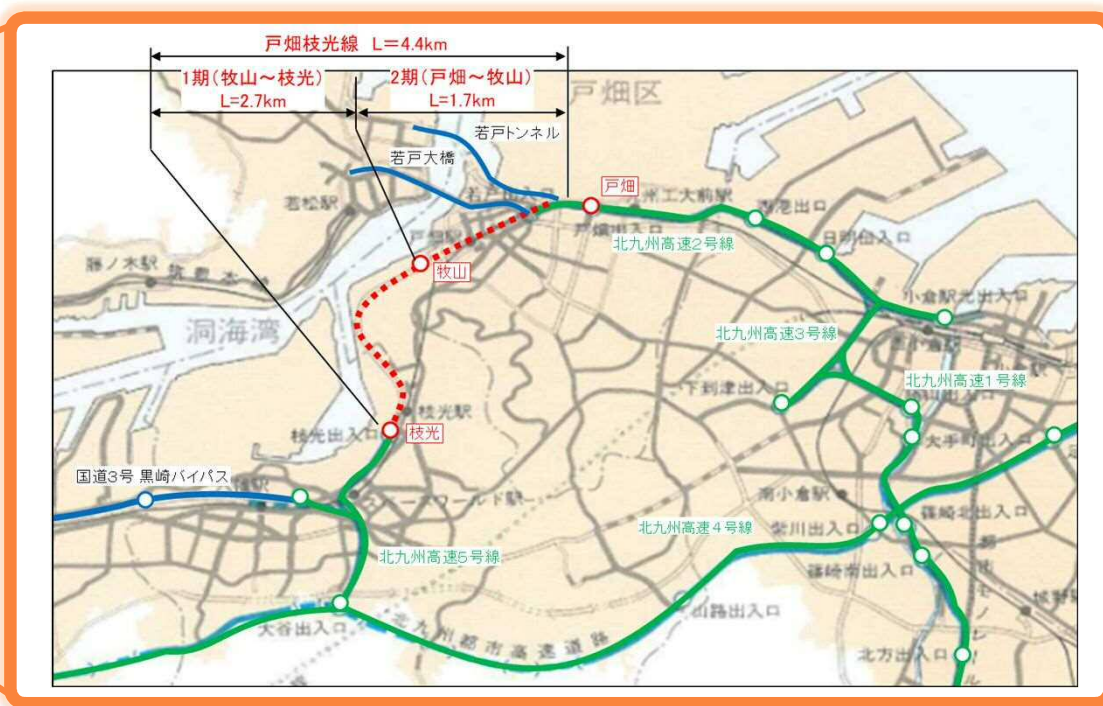
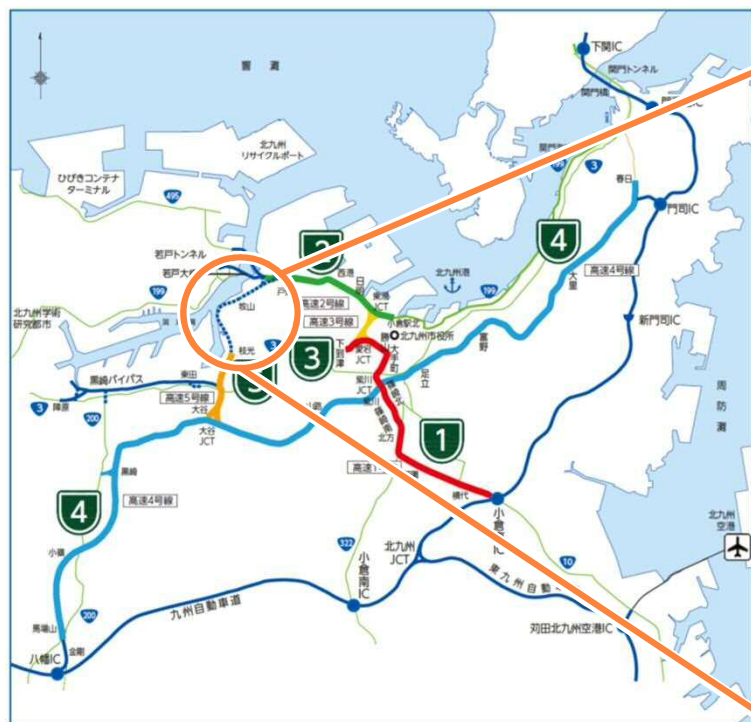


- 福岡高速3号線(空港線)は、福岡高速2号線から福岡空港へ向かう自動車専用道路です。
- 福岡空港の滑走路増設などの機能強化が進められている中、福岡市南部地域や太宰府IC方面からの国内線旅客ターミナルへのアクセス強化と、空港口交差点をはじめとする福岡空港周辺道路の混雑緩和を図ります。
- 令和3年7月から事業に着手し、関係機関、関係者と十分な連携及び協議を行い、早期完成を目指していきます。

ネットワーク機能の強化(北九州高速道路)



北九州高速の環状化(北九州高速5号線(戸畑～枝光)の整備)

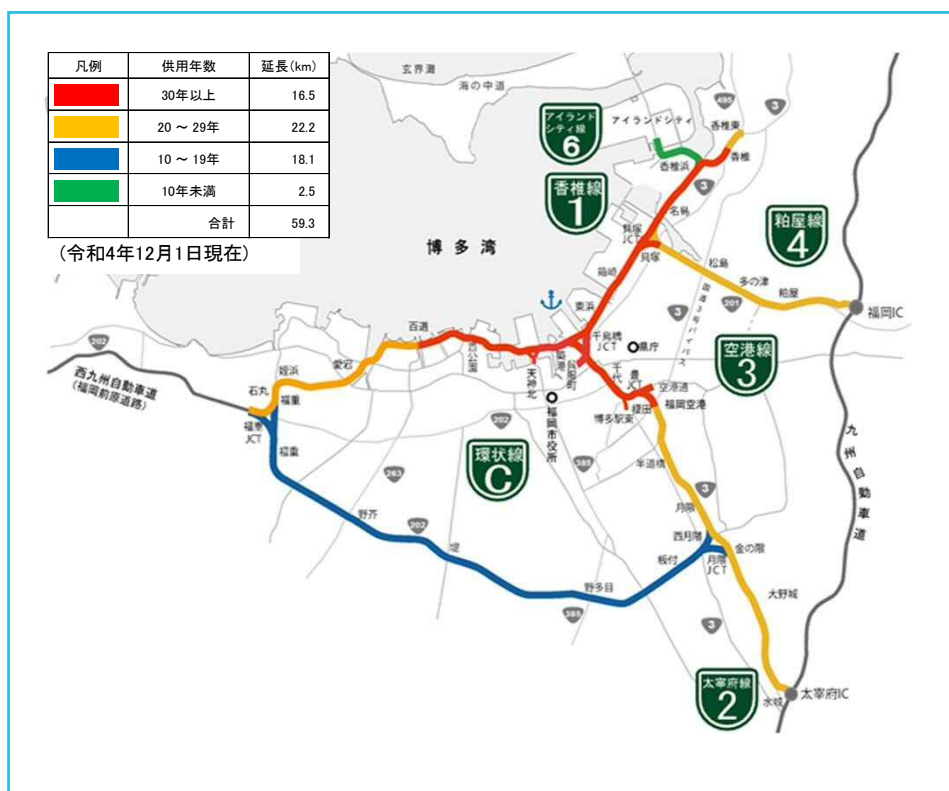


- 北九州高速5号線(戸畑～枝光)は、北九州高速2号線(戸畑)と北九州高速5号線(枝光)を結ぶ自動車専用道路です。
- 北九州高速5号線(戸畑～枝光)を整備することにより、環状放射型の自動車専用道路ネットワークを構築し、円滑な物流・人流の支援と、強靱なネットワークを形成します。近年頻発する災害に対しても、北九州高速5号線は、北九州高速4号線の代替道路として機能します。
- 現在、公社が設立団体等と協議・調整を行いながら、早期の事業着手を目指して手続きを進めております。

安心のための維持管理①

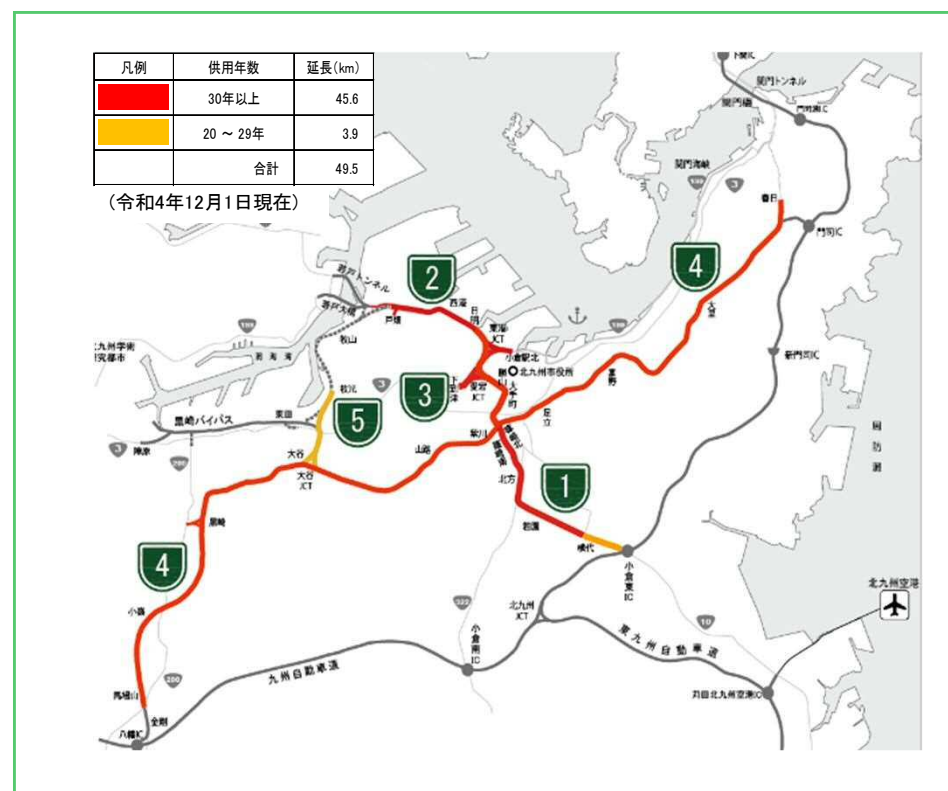
福岡高速道路

- 福岡高速は、路線延長の約3割が供用から30年以上経過したことや、交通量の増加に伴い、橋梁などの老朽化が進んでいます。このため、平成24年から老朽化・予防保全対策を実施しています。



北九州高速道路

- 北九州高速は、路線延長の約9割が供用から30年以上経過し、橋梁等の老朽化が進んでいます。このため、令和4年度から大規模修繕事業を実施しています。



安心のための維持管理②



福岡高速道路

- 平成24年度から老朽化・予防保全対策を実施しています。
- 1号線(香椎～千鳥橋JCT)については、令和3年度に概ね工事が完了しており、今後は2号線(千鳥橋JCT～榎田)や4号線について工事を進めていく予定です。

福岡高速1号線(香椎～東浜)



(工事状況全景)

【工種】 橋梁補修工事

【上部工】 【損傷の特徴】 交通荷重による床版の疲労



(損傷一例)

【補修前】



(炭素繊維シート貼付)

【補修中】



(炭素繊維補強)

【補修後】

福岡高速2号線(榎田～水城)



舗装の損傷



コンクリート床版の土砂化



コンクリート床版下面のひび割れ

北九州高速道路

- 橋梁等の老朽化が進んでおり、応急的な維持補修を実施しているものの、要補修箇所数が増加の傾向にあります。
- このため、令和4年度から1号線～3号線を対象とした大規模修繕事業に着手しています。

主な対策内容

	現状	対策
舗装／床版上面	<p>舗装のひび割れ</p> <p>床版上面のひび割れ</p>	<p>床版防水</p> <p>床版防水＋舗装打替え 床版上面からの雨水、凍結防止剤等の侵入を遮断する。 ※その他断面修復等</p>
伸縮装置	<p>伸縮装置の破損</p>	<p>伸縮装置取替え</p> <p>雨水、凍結防止剤等の漏水を遮断する。</p>
鋼製桁／鋼製橋脚	<p>鋼製桁の腐食</p> <p>鋼製橋脚の腐食</p>	<p>塗装塗替え</p> <p>耐久性の高い塗装に塗替える。</p>
コンクリート橋脚	<p>橋脚の上面</p> <p>コンクリート橋脚のひび割れ</p>	<p>表面保護</p> <p>鉄筋を腐食させる有害物質をコンクリート表面で遮断する。 ※その他ひび割れ補修、断面修復等</p>

交通事故防止対策

- カーブ区間等の事故多発区間において、事故の原因・発生形態を分析し、舗装更新等の交通事故対策を実施しています。

事例 ▶ 福岡高速 環状線(百道→愛宕)

滑り止め機能が高く、排水性機能を有する舗装に更新



施工区間での事故



42件/年(H31.1~R1.12)



0件/年(R3.1~R3.12)

対策前



縦溝粗面型ハイブリッド舗装

対策後

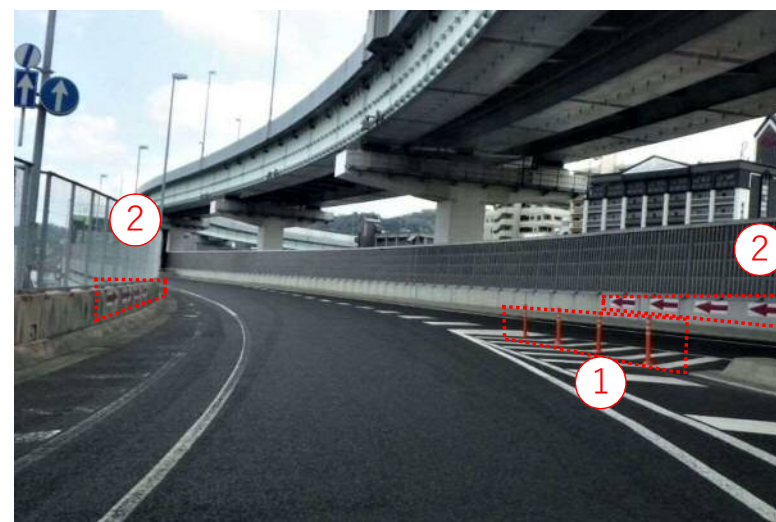
逆走対策

- 福岡高速・北九州高速の両高速の全出口において、令和2年度に逆走対策を完了しました。
- 令和3年度より引き続き、両高速の合流部及びJCT部に下記逆走対策を進めています。

①
ラバーポールの設置

②
壁高欄に矢印板の設置

事例 ▶ 北九州高速 東田合流部



災害に強いまちづくりに資する道路ネットワーク

- 福岡高速及び北九州高速は、地震発生時等に円滑かつ確実な緊急輸送を実現するため、第一次緊急輸送道路に指定されています。
- 災害時には、九州自動車道や西九州自動車道とともに県外の他都市及び広域都市圏相互の連携を図り緊急活動へ役立つことが期待されています。

福岡高速道路



北九州高速道路



第1次緊急輸送道路ネットワーク

県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港等を連絡する道路

第2次緊急輸送道路ネットワーク

第1次緊急輸送道路と市町村役場、主要な防災拠点（行政機関、公共機関、主要駅、港湾、ヘリポート、災害医療拠点、自衛隊等）を連絡する道路

第3次緊急輸送道路ネットワーク

その他の道路

災害時に備えた協定の締結

- 大規模な災害時の相互応援に関する協定（九州地方整備局）

目的	資機材及び職員の相互応援
提携団体	国土交通省九州地方整備局

- 震災時等における応急復旧業務の相互協力に関する協定（都市高速5団体）

目的	災害時の人材・資機材の相互協力
提携団体	首都高速道路株式会社 阪神高速道路株式会社 名古屋高速道路公社 広島高速道路公社 福岡北九州高速道路公社

- 災害時における応急対策に関する協定（民間7団体）

目的	災害時の都市高速の復旧に資する協定
提携団体	日本建設業連合会（土木一般） 日本橋梁建設協会（鋼構造物） プレストレスト・コンクリート建設業協会（PC構造物） 日本道路建設業協会（舗装等） 建設コンサルタント協会（測量設計） 福岡県地質調査業協会（地質調査） 福岡県建設業協会（土木一般）

- 災害時の連携に関する協定（民間企業）

目的	災害時の復旧用車両の通行及び通信機器等の支援
提携団体	KDDI

道路啓開訓練の実施

- 更なる早期開放を目的として、緊急車両等が通行可能となる段差解消資機材を用いた道路啓開訓練を公社として定期的の実施しています。

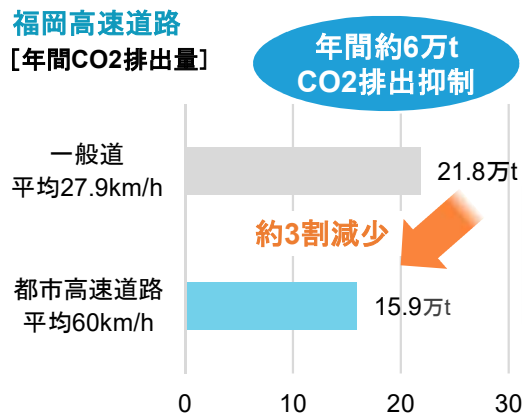
環境負荷軽減に向けた取り組み

高速道路の整備効果

- 都市高速の利用で、一定速度での走行や一般道路の渋滞緩和など、環境負荷の低減に貢献しています。

福岡高速道路

[年間CO2排出量]

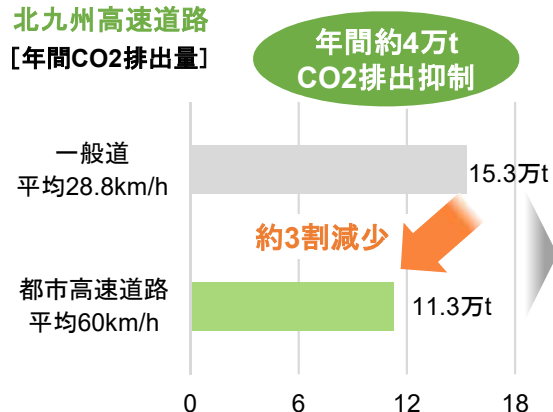


[CO2排出抑制効果イメージ]

- 年間のCO2排出抑制量は、森林面積に換算すると5,633ha
- 福岡市面積の約16%に相当

北九州高速道路

[年間CO2排出量]



[CO2排出抑制効果イメージ]

- 年間のCO2排出抑制量は、森林面積に換算すると3,832ha
- 北九州市面積の約8%に相当

【根拠資料】

CO2排出係数:「道路環境影響評価等に用いる自動車排出係数の算定根拠(平成22年度版)」(国総研資料第671号)

CO2吸収量:「土地利用、土地利用変化及び林業に関するグッド・プラクティス・ガイダンス(優良手法指針)」による

道路照明のLED化

- 公社では事業活動に伴う消費電力量を削減するために、道路照明のLED化を進めています。LED照明は、従来の高圧ナトリウム照明と比較して消費電力量を削減できます。
- さらに、視認性の向上による安全運転への寄与、長寿命、小型・軽量による維持管理費の削減が図れます。引き続き道路照明のLED化を推進してまいります。

LED化率
18.3%

=

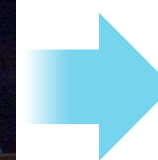
LED灯数 2,570灯

全灯数 14,015灯

令和4年3月末日現在



高圧ナトリウム照明
(福岡高速1号線名島付近)



LED照明

- 利用者の方々へ感謝を伝え、もっと都市高速を知って頂くために、イベントを開催しました。

福岡高速道路

高校生「フィールドスタディ」

- 令和4年11月9日(水)に、フィールドスタディで会社に訪れた城南高校の1年生20人に、都市高速高架下の有効利用について、高校生ならではの視点で課題解決方法などの提案を受けました。
- また、維持補修基地や管制室などを見学したり、若手職員との座談会を通して、都市高速をディープに体験していただきました。



公社職員による会社説明



維持補修基地見学

北九州高速道路

親子で都市高速のお仕事体験

- 令和4年11月19日(土)に、「親子で都市高速のお仕事体験」イベントを開催いたしました。応募数37組から選ばれた、小中学生とその保護者12組が都市高速について勉強し様々なお仕事体験を行いました。



都市高速についての授業



交通管制室見学



道路補修体験



道路点検体験



交通パトロール体験

イベント参加者の感想(抜粋)

高速道路が新しく造られるまでの過程や、高速道路がスムーズに流れるようにする工夫など、知らなかったことをたくさん知ることができて、良い経験になりました。

自分たちが考えた企画内容について、丁寧にフィードバックしてくれたのがよかった。

座談会や会社見学で、知らなかったことについて、たくさん知識を楽しく得ることができた。

イベント参加者の感想(抜粋)

いろいろな職種があり、いろいろなプロがいることを子どもたちに体験させていただいて、本当に親としても良い経験が出来ました。

子どもはイベント時楽しい！がなかなか表に出ていなかったかもしれませんが帰って写真や動画を夫に見せて興奮気味にいろいろなお話をしていました。

親切丁寧で、親子共々とても勉強になりました。普段の生活では経験することができない、貴重な体験となり楽しかったです。子供が興味を持ってくれて、とても嬉しく思いました。



第2部

財務状況・資金調達

1. 財務状況 会計処理の特徴

- 公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。
＜根拠法令等＞地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の 会計の特徴は

- 有料道路事業制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

借入金の償還状況を 適切に把握するために

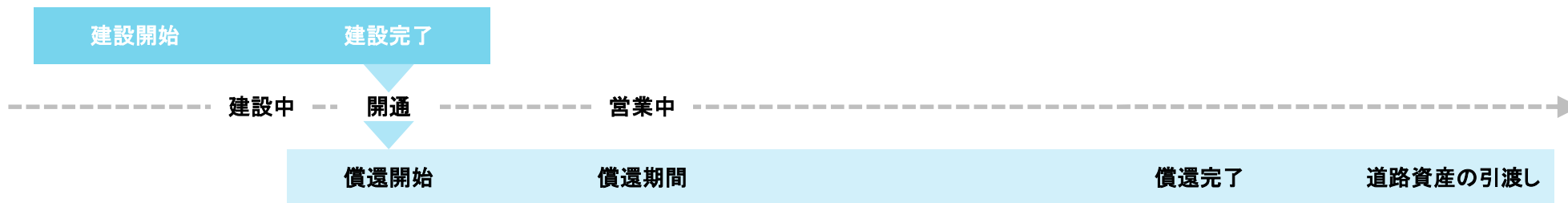
- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路事業制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金 積立方式を採用

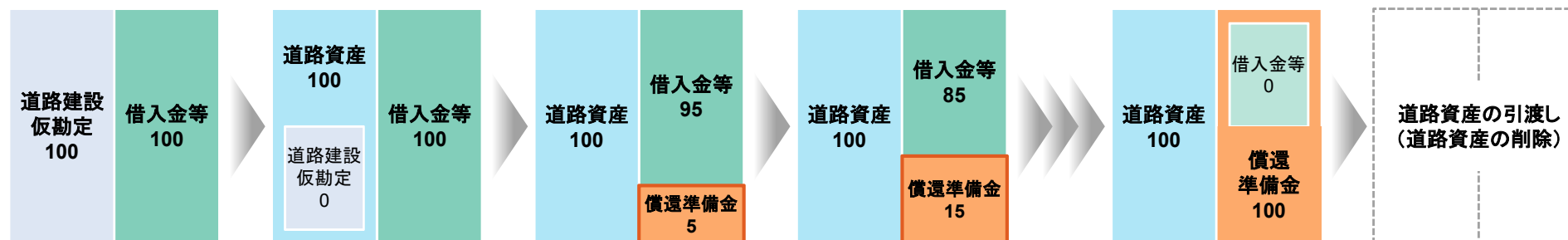
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

償還準備金積立方式のしくみ

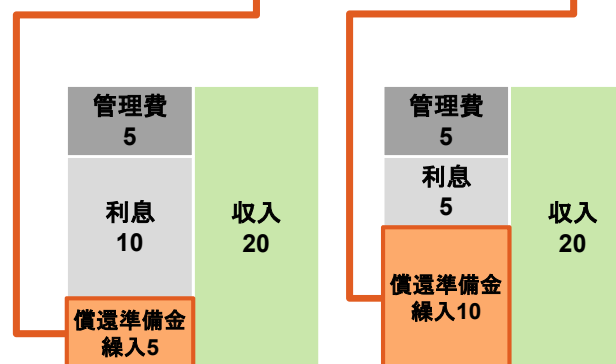
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



■ 貸借対照表



■ 損益計算書



令和3年度損益計算書の概要

- 償還準備金繰入 = 道路事業の収支差益 (= 道路の当期利益)
- 当期利益金 = 駐車場事業の収支差益 (= 駐車場の当期利益)

(単位: 億円)

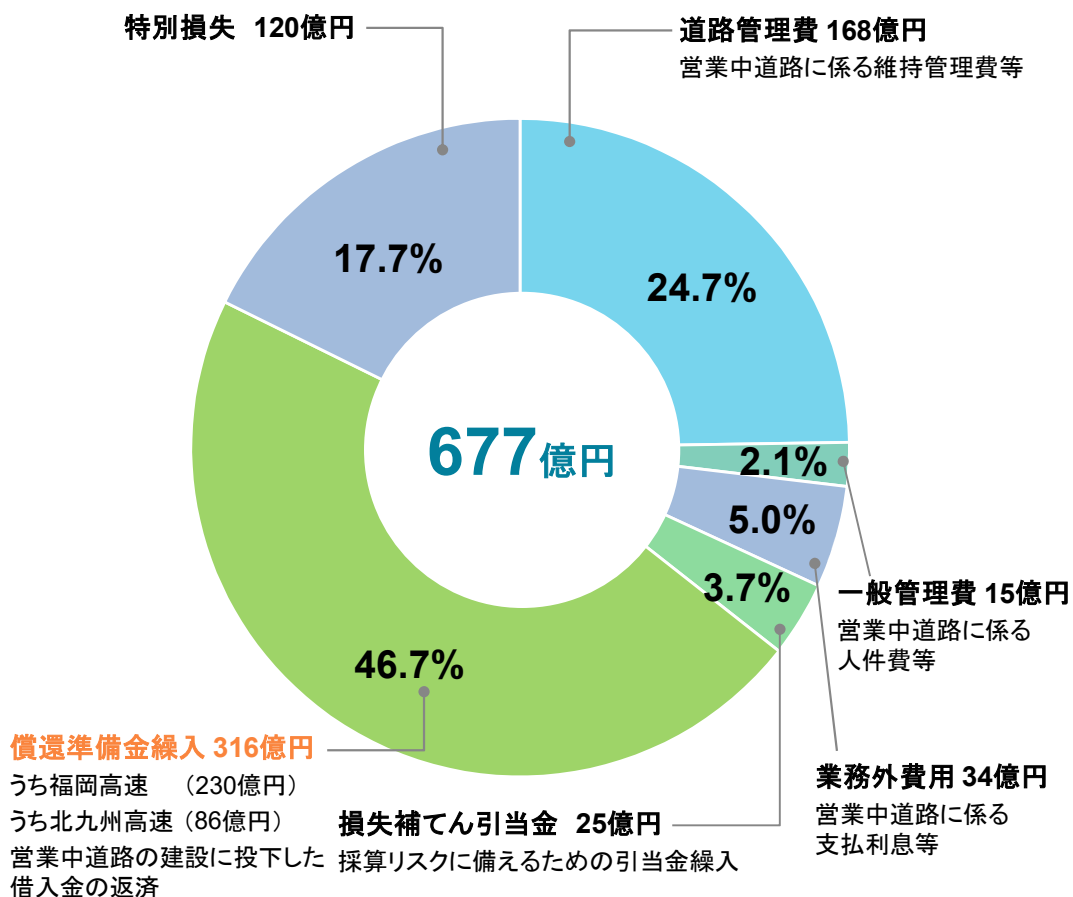
費用の部					収益の部				
科目	金額			増減率	科目	金額			増減率
	令和3年度	令和2年度	差額			令和3年度	令和2年度	差額	
事業資産管理費	169	148	21	14.3%	業務収入	559	514	45	8.8%
道路管理費	168	146	21	14.4%	道路料金収入	553	508	45	8.9%
駐車場管理費	1	1	0	1.9%	(福岡高速)	394	359	35	9.8%
一般管理費	15	15	1	3.9%	(北九州高速)	159	149	10	6.6%
業務外費用	34	36	△2	△5.6%	ETCマイレージ還元負担金収入	2	2	0	9.2%
損失補てん引当金繰入	25	23	2	8.9%	(福岡高速)	2	2	0	9.6%
小計	243	221	22	9.8%	(北九州高速)	0	0	0	6.5%
償還準備金繰入	316	294	22	7.6%	駐車場収入	2	2	0	3.0%
(福岡高速)	230	216	14	6.5%	業務雑収入	2	2	0	△11.1%
(北九州高速)	86	78	8	10.8%	業務外収益等	0	1	△1	△62.3%
特別損失	120	0	120	—	特別利益	120	0	120	—
当期利益金	0	0	0	23.8%	損失補てん引当金取崩益	120	0	120	—
合計	680	515	164	31.9%	合計	680	515	164	31.9%

注1) 上記収益及び費用は受託業務、負担金事業を除いています
 注2) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっています
 注3) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

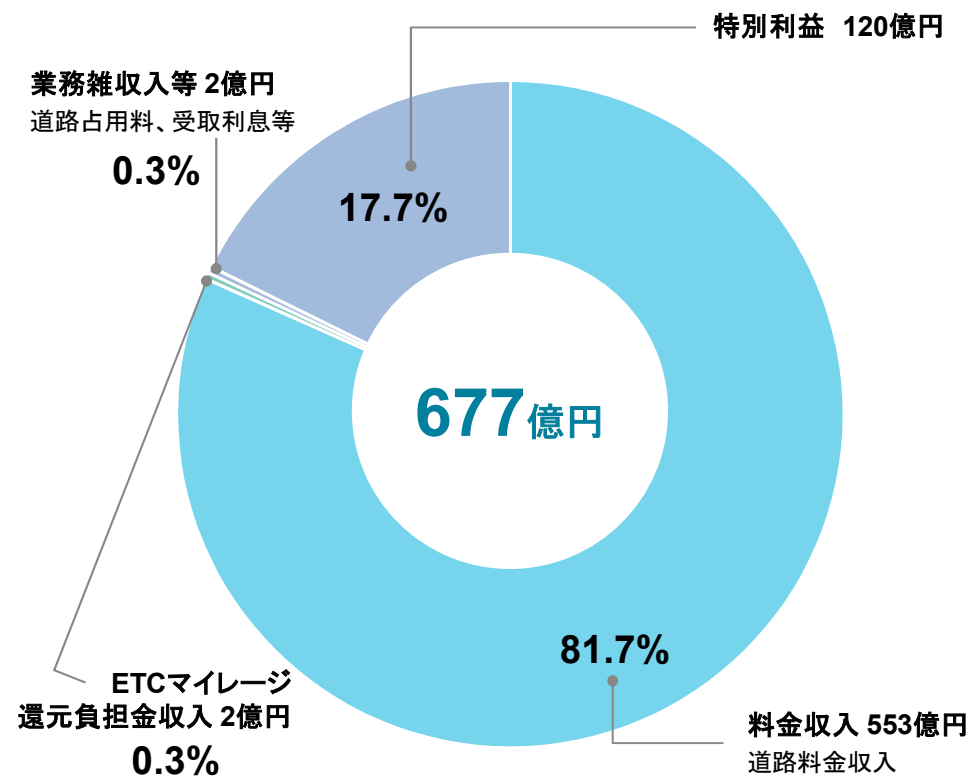
収支状況(令和3年度決算:損益計算書〔道路部門〕)

- 令和3年度は、**収支差益(償還準備金繰入)**が約**316億円**
- 収支差益は、全額、道路建設に投下した借入金の返済に充当

費用内訳



収益内訳



注1) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります
 注2) 割合は百万円単位で計算しています

令和3年度貸借対照表の概要

(単位: 億円)

資産の部					負債及び資本の部				
科目	金額			増減率	科目	金額			増減率
	令和3年度	令和2年度	差額			令和3年度	令和2年度	差額	
流動資産	130	147	△17	△11.5%	流動負債	447	449	△1	△0.3%
現金・預金外	130	147	△17	△11.5%	1年以内返済予定債券・借入金※	373	365	7	2.0%
固定資産	12,871	12,829	42	0.3%	その他	75	83	△9	△10.4%
事業資産	12,813	12,797	16	0.1%	固定負債	4,082	4,399	△317	△7.2%
(福岡高速)	9,050	9,036	14	0.2%	道路債券※	3,144	3,254	△110	△3.4%
(北九州高速)	3,763	3,761	2	0.1%	政府借入金※	221	269	△48	△18.0%
道路建設仮勘定	7	0	7	—	その他借入金※	646	804	△158	△19.7%
有形固定資産等	51	31	19	61.6%	退職給与引当金等	3	3	△1	△17.2%
					資産見返交付金	69	69	0	0.0%
繰延資産	7	8	△1	△12.5%	特別法上の引当金等	6,221	5,879	341	5.8%
債券発行差金外	7	8	△1	△12.5%	損失補てん引当金	305	400	△95	△23.7%
					償還準備金	5,916	5,480	436	8.0%
					(福岡高速)	4,736	4,505	230	5.1%
					(北九州高速)	1,180	974	206	21.1%
					負債合計	10,750	10,727	23	0.2%
					基本金	2,247	2,246	1	0.1%
					地方公共団体出資金	2,247	2,246	1	0.1%
					剰余金	12	11	0	2.7%
					資本合計	2,259	2,258	1	0.1%
合計	13,009	12,984	24	0.2%	合計	13,009	12,984	24	0.2%

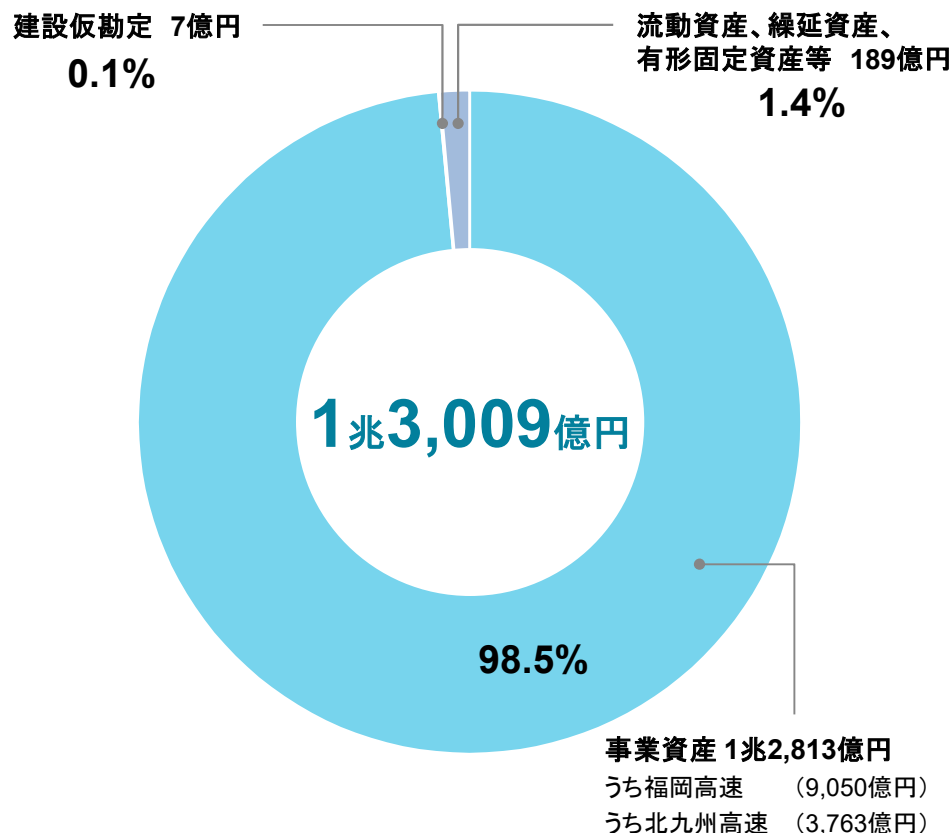
注1) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっています
注2) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

※ 借入金合計4,383億円(短期借入金は除く)
(内訳: 流動負債373億円+固定負債のうち道路債券、政府借入金、その他借入金計4,010億円)

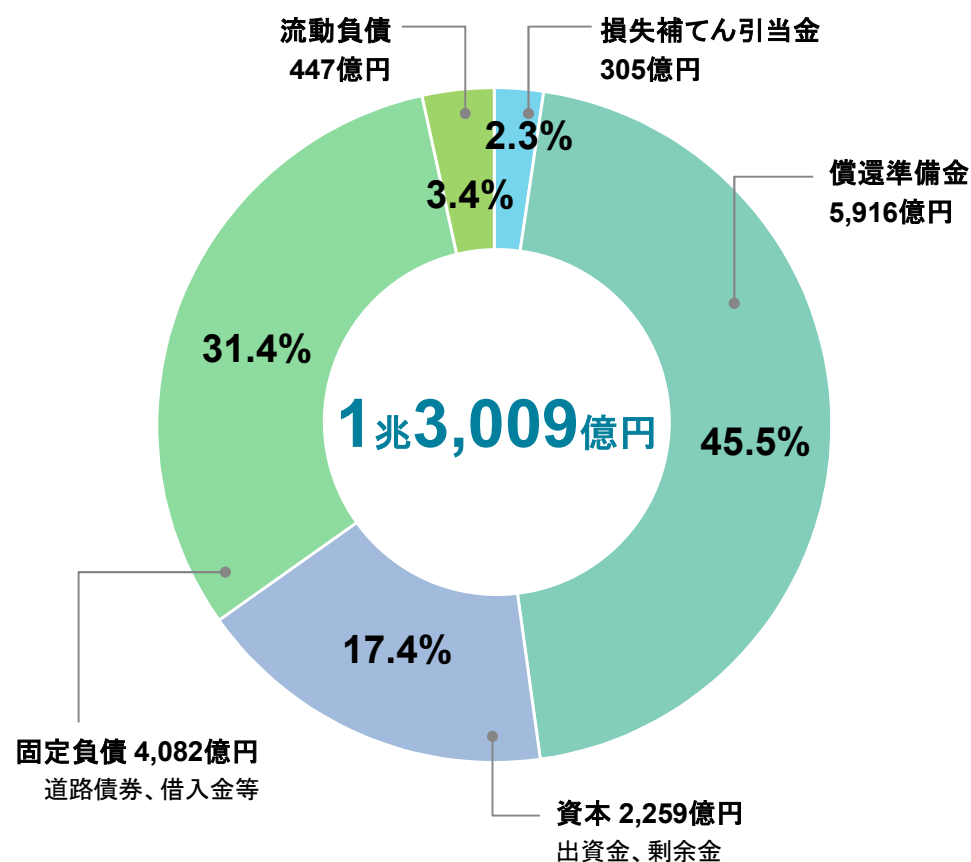
財務状況(令和3年度決算:貸借対照表)

- 資産1兆3,009億円のうち、約99%を道路資産が占める
- 負債・資本のうち31.4%が固定負債(道路債券、長期借入金等)
- 営業中道路の償還に充当した累計額(償還準備金)は、5,916億円
- 道路事業損失補てん引当金(将来の採算リスクに備えるための引当金)は、指定都市高速道路では、唯一当公社のみが積立
- 毎年度の引当率は料金収入の5%
- 資本のうち基本金(2,247億円)は、全額設立団体の出資金

資産内訳



負債・資本内訳



注1) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

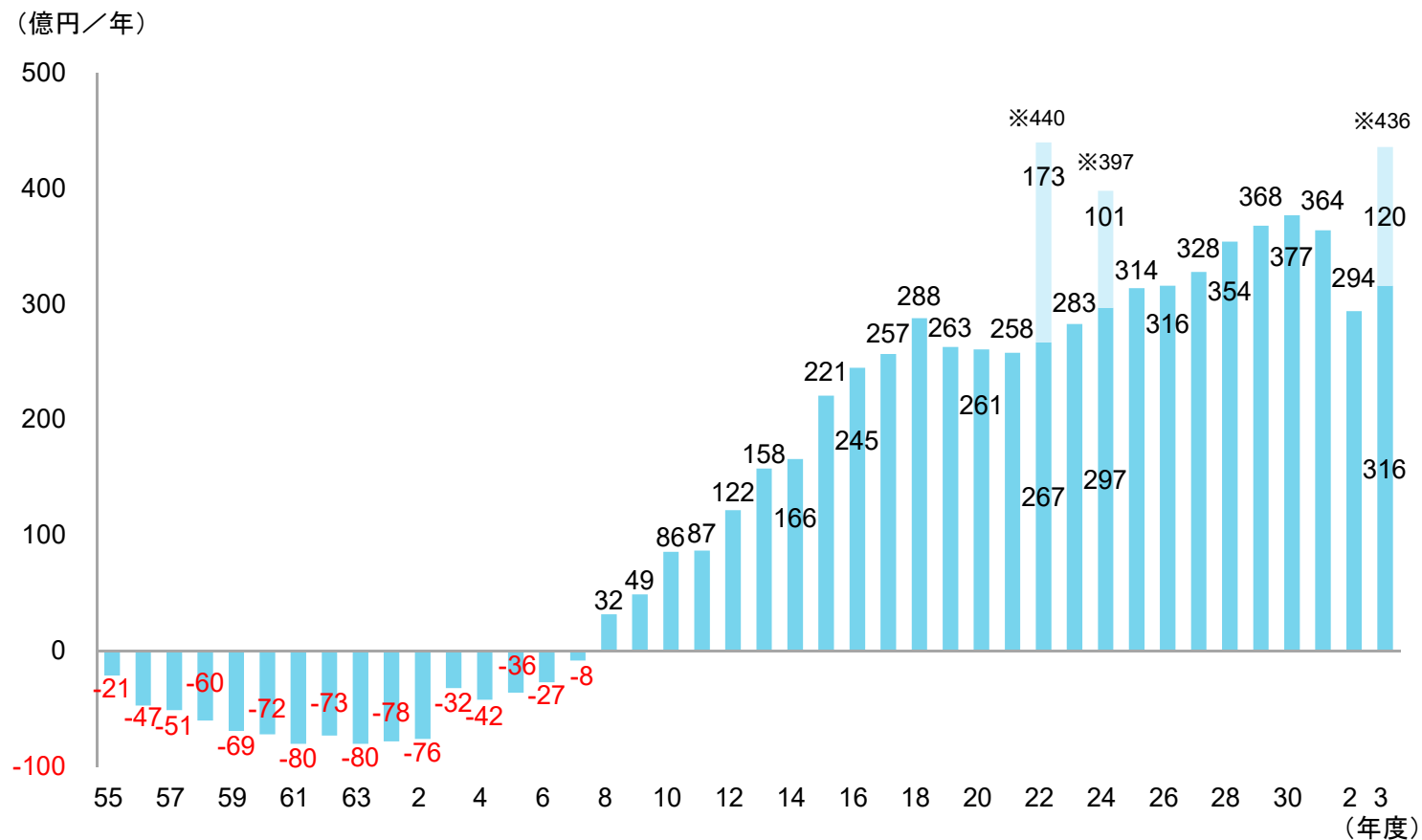
注2) 割合は百万円単位で計算しています

償還準備金繰入の推移

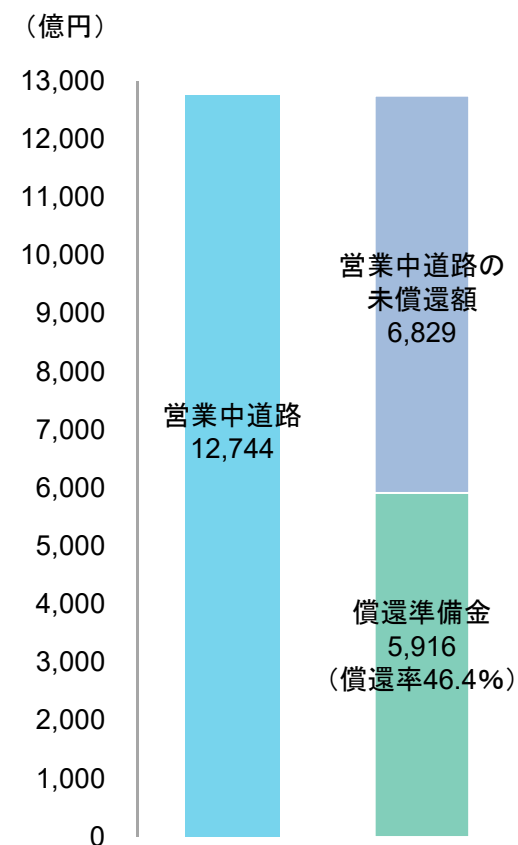
- 償還準備金繰入は堅調に推移
- 繰入の累計である償還準備金は令和3年度末に5,916億円となり、今後も着実に償還準備金積立を行う見通し

償還準備金繰入の推移と償還状況

償還準備金繰入の推移(S55～R3年度)



償還状況(令和3年度末)



※ 平成22年度は173億円、平成24年度は101億円、令和3年度は120億円の損失補てん引当金取り崩し額を含みます
 注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

償還率の推移(平成28～令和3年度)

- 償還率は堅調に上昇し、償還は確実に進展

償還率とは、営業中路線の
資産額に対する償還準備金の割合

償還率

=

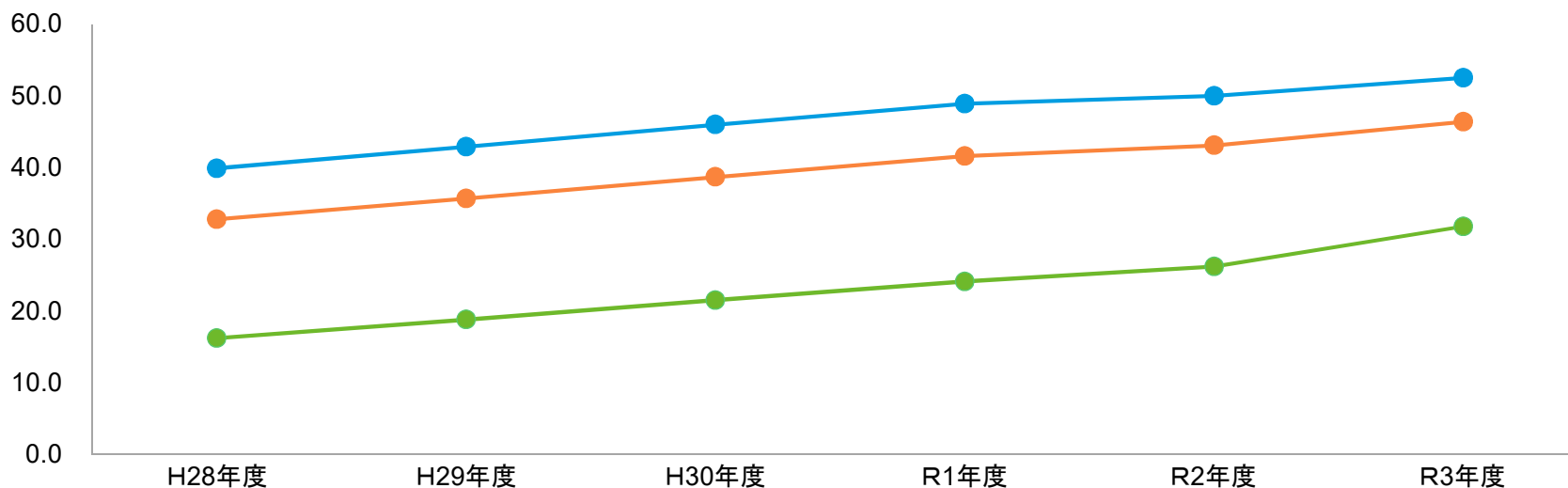
償還準備金

営業中の道路資産(△資産見返交付金)

× 100

償還率の推移(平成28～令和3年度)

(%)



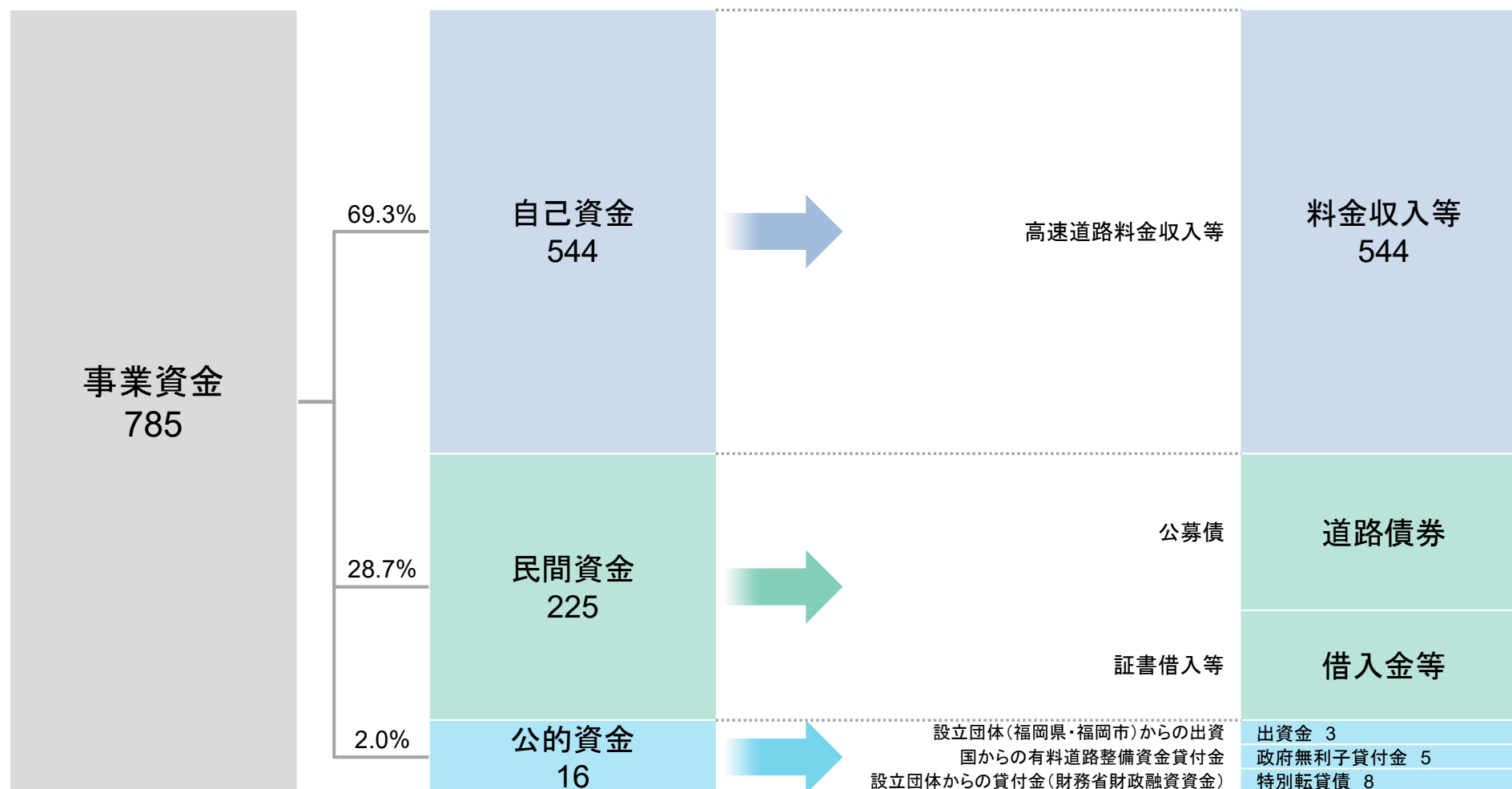
全体	32.8	35.7	38.7	41.6	43.1	46.4
福岡高速	39.9	42.9	46.0	48.9	50.0	52.5
北九州高速	16.2	18.8	21.5	24.1	26.2	31.8

注) 割合は百万円単位で計算しています

2. 資金調達 資金調達の概要

令和4年度の資金構成・予算額

(単位: 億円)



注1) 受託業務収入、負担金事業収入等を除いています

注2) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

令和4年度の債券発行額

令和5年3月

福岡北九州高速道路債券(公募債)

2年債・10年債で計70億円程度を発行予定

- 条件決定日は3月上旬、払込日は3月20日を予定
- 公募債累計発行総額 4,585億円(平成16年度から、毎年継続的に発行)

福岡北九州高速道路債券(公募債)発行実績(平成28～令和3年度)

発行年度	発行月	回数	発行額	年限	スプレッド	利率	発行年度	発行月	回数	発行額	年限	スプレッド	利率
平成28年度	9月	144回	75億円	10年	15.0bp	0.120%	平成30年度	3月	153回	50億円	15年	14.5bp	0.382%
	12月	145回	85億円	20年	5.5bp	0.560%		3月	154回	80億円	20年	4.5bp	0.497%
	3月	146回	100億円	10年	16.0bp	0.245%	令和元年度	3月	155回	150億円	10年	—	0.055%
	3月	147回	80億円	15年	12.0bp	0.502%		3月	156回	40億円	15年	13.0bp	0.221%
	3月	148回	80億円	20年	5.5bp	0.731%		3月	157回	50億円	20年	4.5bp	0.251%
平成29年度	3月	149回	110億円	10年	17.0bp	0.225%	令和2年度	3月	158回	70億円	10年	9.0bp	0.249%
	3月	150回	60億円	15年	10.5bp	0.396%		3月	159回	50億円	15年	7.0bp	0.440%
	3月	151回	90億円	20年	3.5bp	0.582%		3月	160回	50億円	20年	3.5bp	0.573%
平成30年度	3月	152回	155億円	10年	17.0bp	0.176%	令和3年度	3月	161回	40億円	10年	7.0bp	0.239%

注)カーブ対比のスプレッドを記載しています。155回は絶対値で条件決定したため、スプレッドの記載は省略しています。

3. 福岡北九州高速道路債券

金融商品取引法上の取扱い

証券決済制度改革に伴う法改正で、平成15年1月から地方公社が発行する債券は金融商品取引法上の有価証券に該当します

- 地方道路公社法第27条の2「道路公社は、債券を発行することができる」
- 金融商品取引法第2条第3号「特別の法律により法人の発行する債券」

BISリスクウェイト

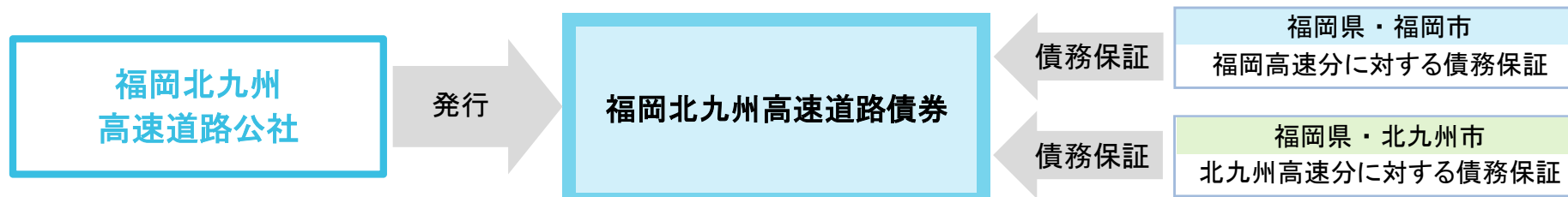
福岡北九州高速道路公社が発行する債券は、地方道路公社法第28条に基づく債務保証付き債券であり、現行のBIS規制上のリスクウェイトは地方債と同様の0%となります。

リスクウェイト	与信先	金融庁告知基準
0%	国債	第56条2
	政府保証債	第56条2(第124条)
	地方債	第58条
	地方道路公社債(債務保証付き)	第58条(第124条)
10%	政府関係機関(財投機関債)	第61条1項
	地方公共団体金融機構	第60条の二
20%~	株式会社形態の事業法人等(格付けによる分類)	第65条

債務保証の内容

福岡北九州高速道路債券は、**福岡県・福岡市・北九州市からの債務保証付の債券**

- 本債券の元金及び利息の支払いは各団体が分担して保証



地方道路公社法第28条

- 「設立団体は、法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律第3条の規定にかかわらず、**道路公社の債務**について**保証契約**をすることができる。」

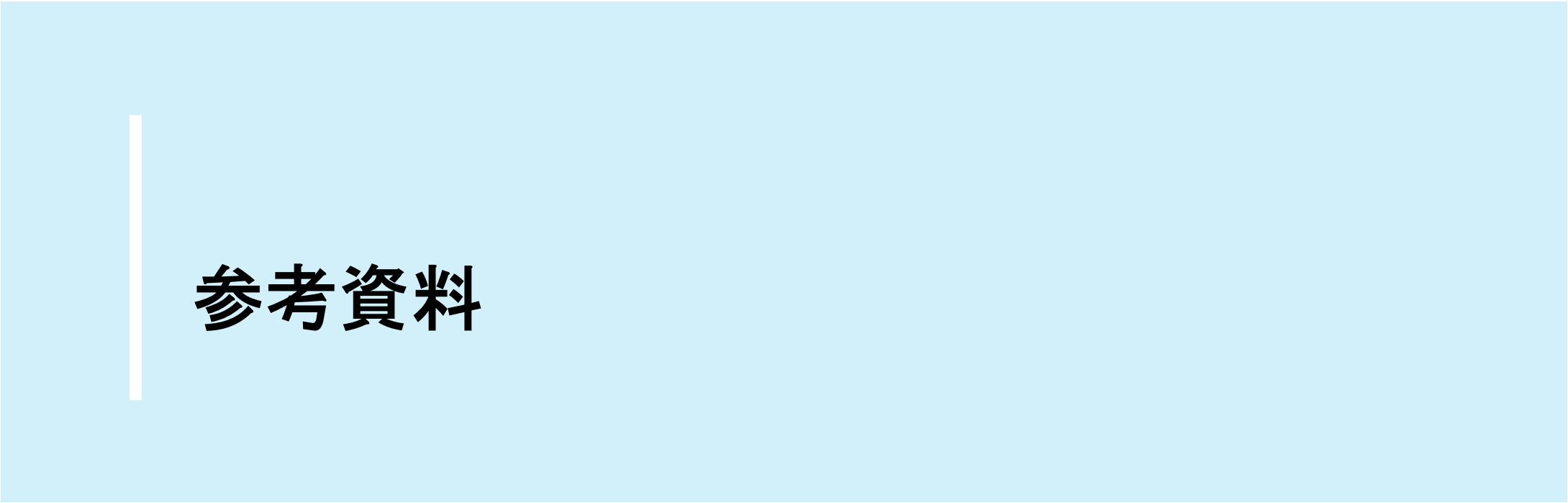
(参考) 法人に対する政府の財政援助の制限に関する法律第3条

「政府又は地方公共団体は、会社その他の法人の債務については、保証契約をすることができない。ただし、財務大臣(地方公共団体のする保証契約にあつては、総務大臣)の指定する会社その他の法人の債務については、この限りでない。」

債務保証と損失補償の違い

	債務保証	損失補償
保証(補償)の内容	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保証対象は、債務者が履行しなかった債務のすべて ■ 主たる債務が履行遅延となると直ちに履行義務を負う 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 補償対象は、債務者が履行しなかった債務の一部でも可 ■ 主たる債務の不履行の後、損失額が確定してから補償される
保証(補償)が付された債券のBISリスクウェイト	0%	20%

注) 平成18年度より(株)格付投資情報センター(R&I)に依頼して取得していた発行体格付は、債務保証付き債券であることを鑑み、平成24年度から更新依頼を行っていません。



參考資料

通行台数・料金収入の推移（福岡高速道路）

令和3年度

平均通行台数

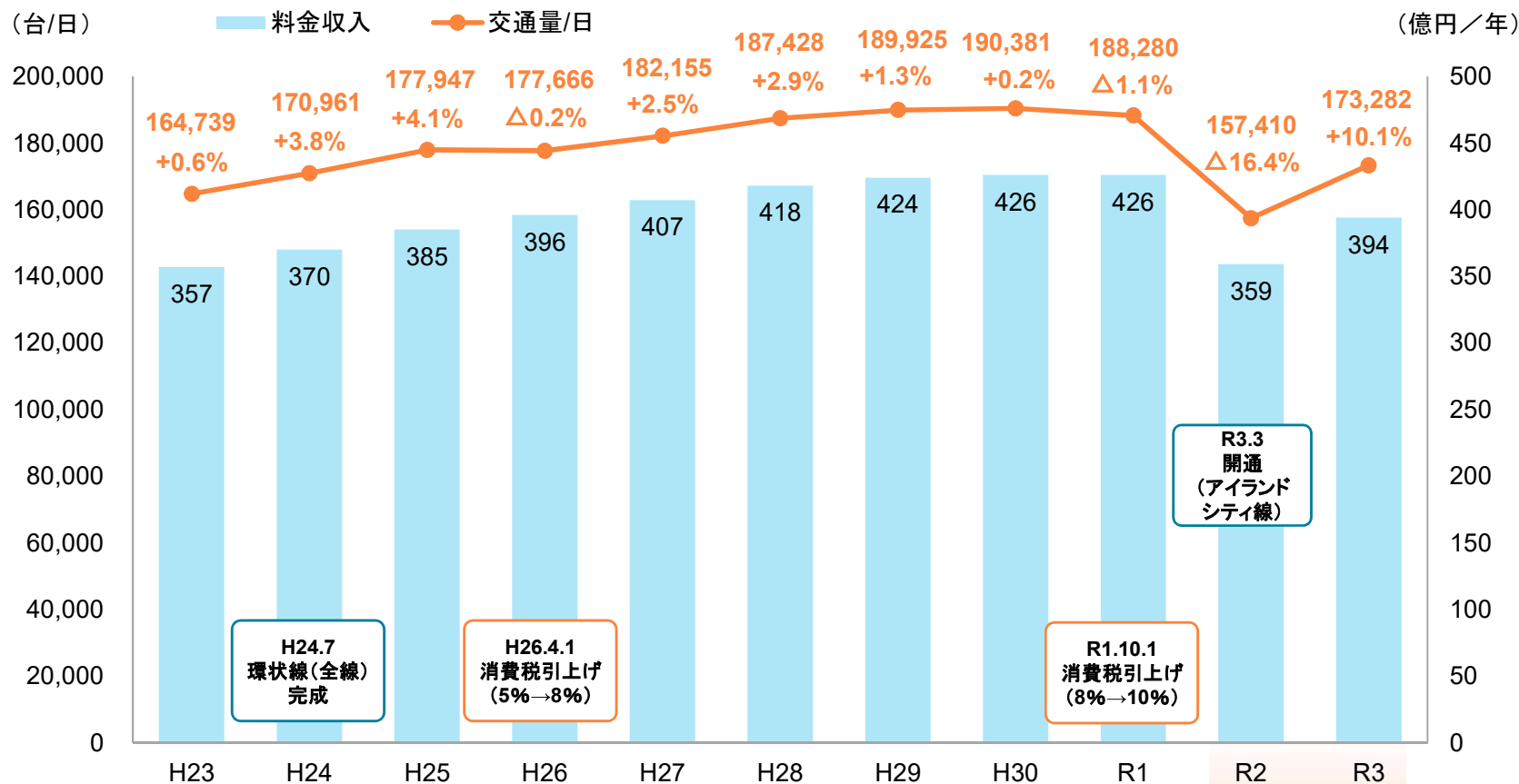
17.3万台/日

平均料金収入

1.08億円/日

料金収入

394億円/年



供用延長距離

59.3km

料金

福岡高速

普通車 **630円**
大型車 **1,260円**

注) 料金収入のみを計上しています(駐車場収入を除く)

新型コロナウイルス
感染症拡大

通行台数・料金収入の推移（北九州高速道路）

令和3年度

平均通行台数

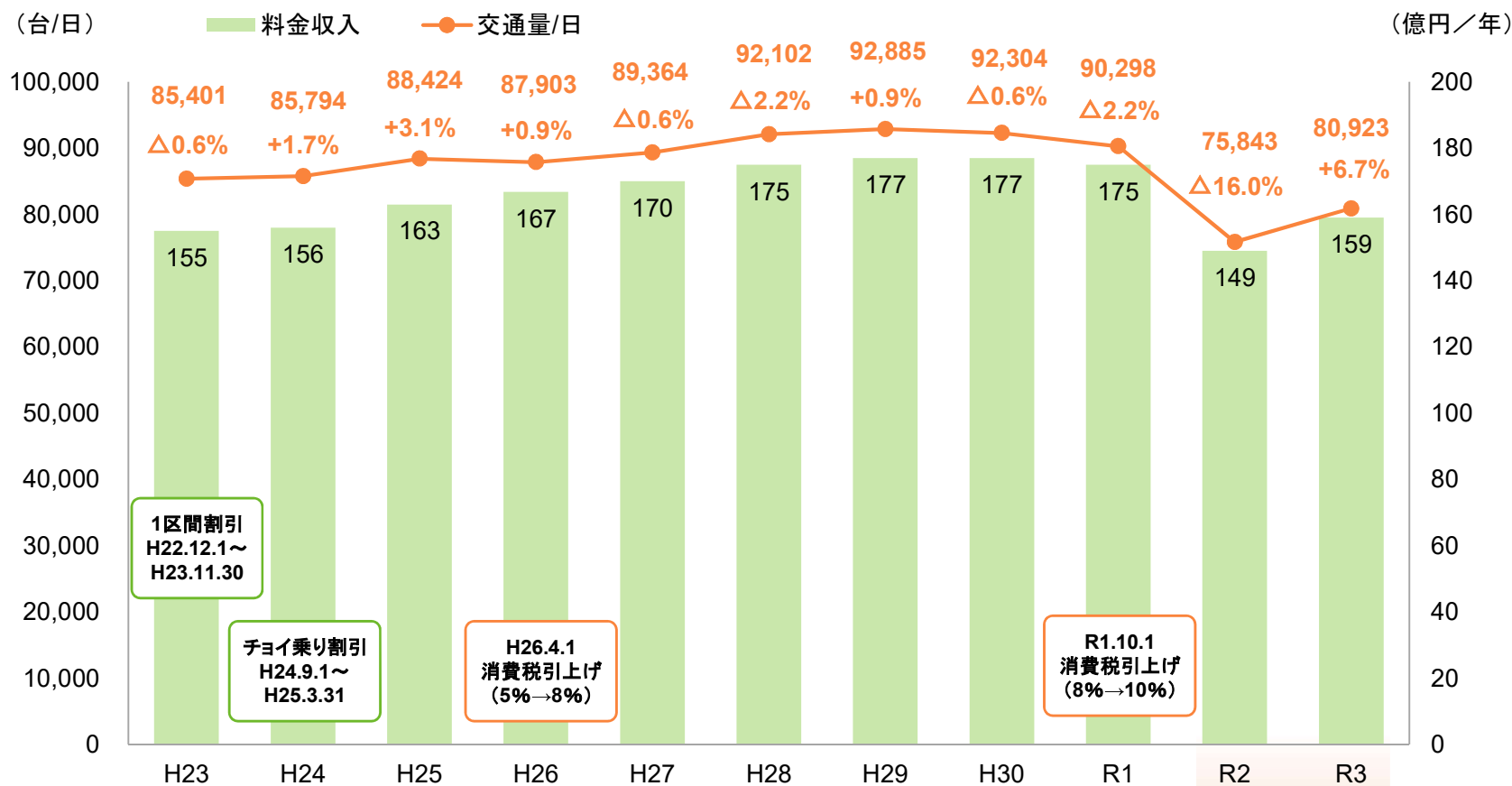
8.1万台/日

平均料金収入

0.44億円/日

料金収入

159億円/年



1区間割引
H22.12.1~
H23.11.30

チャイ乗り割引
H24.9.1~
H25.3.31

H26.4.1
消費税引上げ
(5%→8%)

R1.10.1
消費税引上げ
(8%→10%)

新型コロナ
ウイルス
感染症拡大

供用延長距離

49.5km

料金

北九州高速

普通車 **520円**

大型車 **1,050円**

注) 料金収入のみを計上しています(駐車場収入を除く)

収支状況の推移(平成28～令和3年度)

- 経年的にも、毎年度、**確実に収支差益を確保**

収支率とは、収益に対する
費用(管理費 + 金利等)の割合

収支率

=

管理費

+

金利

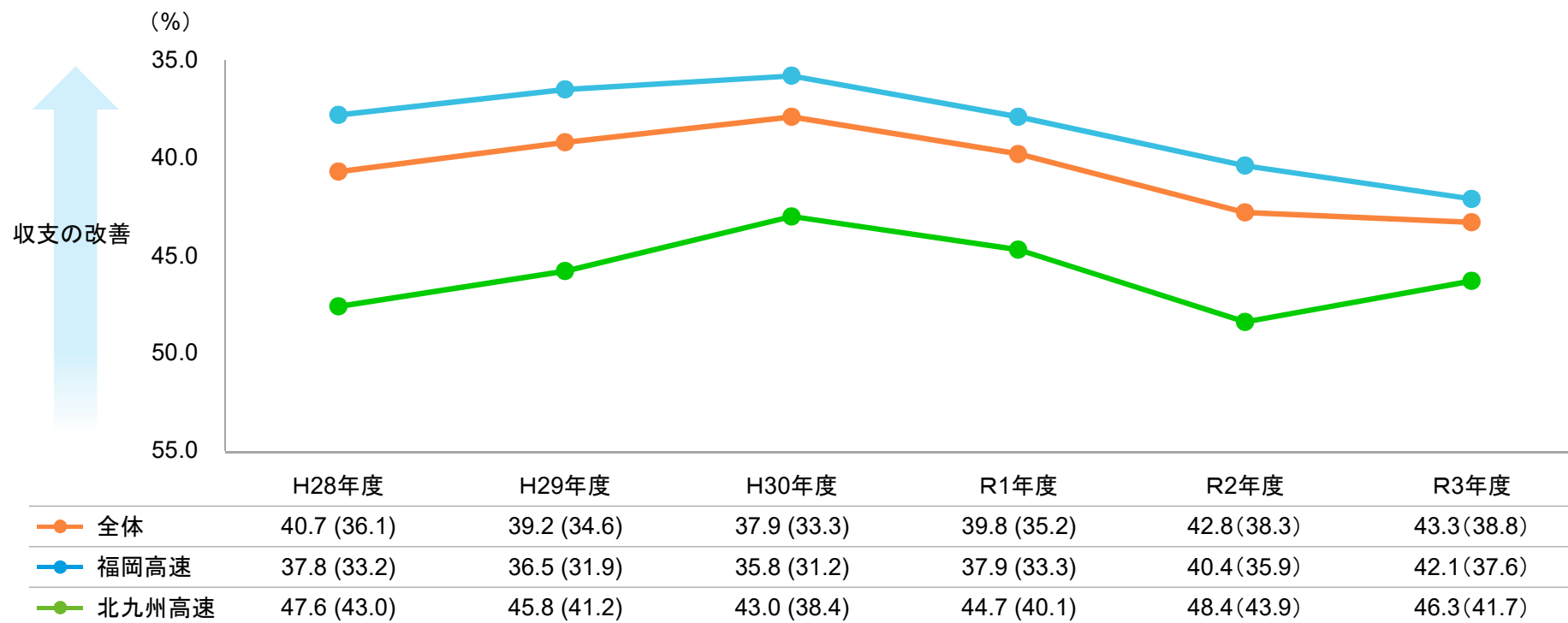
+

損補

× 100

収益(料金収入等)

収支率の推移(平成28～令和3年度)



注1) 割合は百万円単位で計算しています

注2) ()内の数値は損失補てん引当金を考慮しない場合の収支率です

キャッシュ・フロー計算書

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、年間300億円超となっており安定的に推移しています。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に福岡高速3号線(空港線)の建設によるものです。

(単位: 億円)

	R3年度(A)	R2年度(B)	増減額(A-B)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	436.2	293.8	142.5
退職給与引当金等の増減額	0.1	0.2	△ 0.1
損失補てん引当金の増減額	△ 94.9	23.1	△ 118.0
債券・長期借入金利息等	32.3	34.4	△ 2.1
債券・長期借入金利息等の支払額	△ 32.6	△ 35.0	2.3
その他	34.3	△ 5.1	39.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	375.4	311.4	64.0
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 15.2	△ 11.9	△ 3.2
建設仮勘定の取得による支出	△ 59.2	△ 64.0	4.8
固定資産の取得による支出	△ 0.4	△ 0.9	0.5
事業資産等の売却による収入	0.0	1.2	△ 1.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 74.7	△ 75.6	0.8
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0.0	0.0	0.0
短期借入金の返済による支出	0.0	0.0	0.0
債券・長期借入金による収入	56.0	248.1	△ 192.2
債券・長期借入金の返済による支出	△ 365.3	△ 445.2	80.0
出資金の受入による収入	1.0	9.7	△ 8.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 308.3	△ 187.4	△ 120.9
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
V 現金及び現金同等物の増加額	△ 7.7	48.4	△ 56.0
VI 現金及び現金同等物期首残高	84.6	36.3	48.4
VII 現金及び現金同等物期末残高	77.0	84.6	△ 7.7

注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

償還計画図

福岡・北九州高速道路の償還計画

供用延長

108.8km

事業費

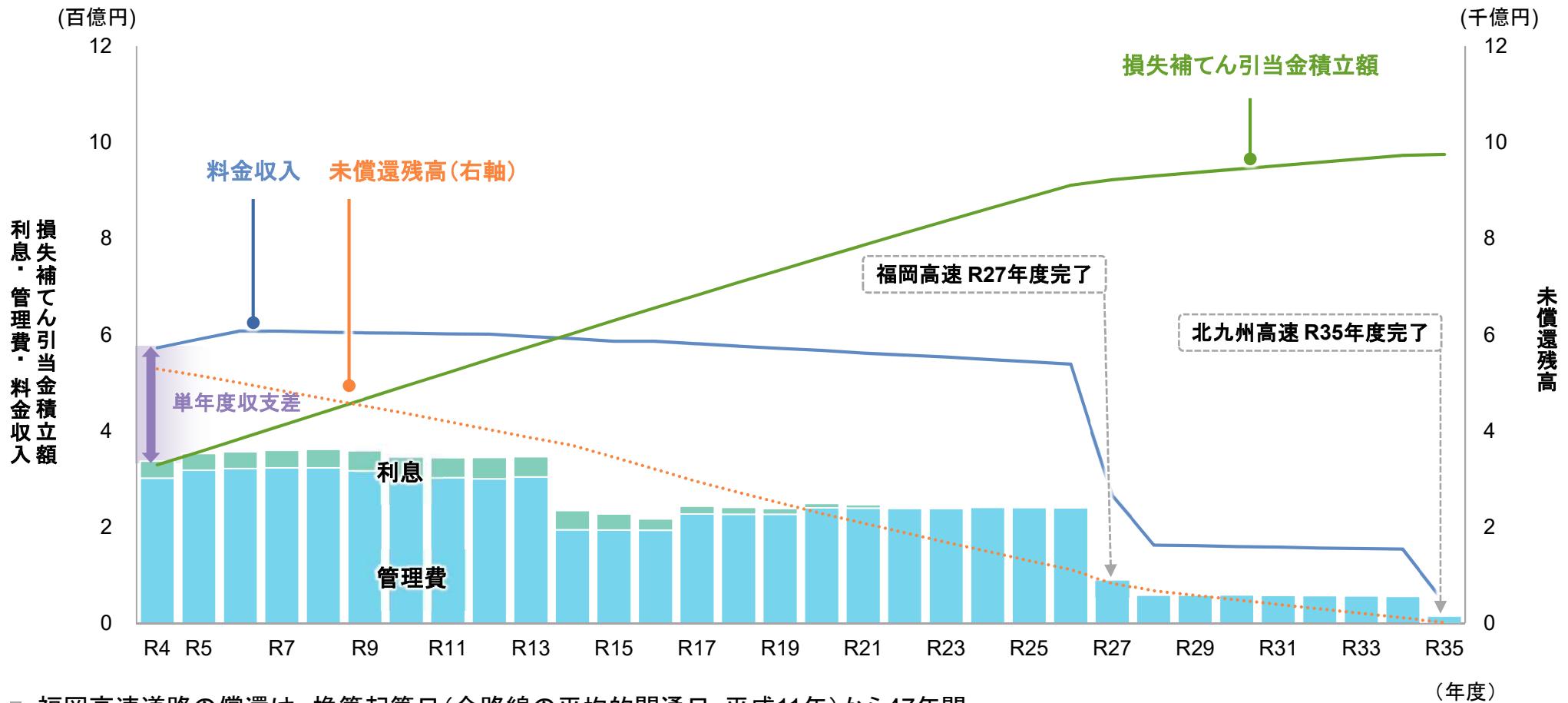
1兆2,548億円

償還完了

令和35年度

損失補てん引当金額

975億円



- 福岡高速道路の償還は、換算起算日(全路線の平均的開通日・平成11年)から47年間
- 北九州高速道路の償還は、換算起算日(全路線の平均的開通日・平成5年)から60年間

令和4年度収入支出予算(事業別)

(単位:億円)

区分	収 入			支 出				
	科目	R4年度 予算額(A)	R3年度 予算額(B)	(A)/(B)	科目	R4年度 予算額(A)	R3年度 予算額(B)	(A)/(B)
建設事業	県・市出資金	3	1	317.6%	高速道路建設費等	18	3	600.0%
	政府無利子貸付金	5	2	317.6%	一般管理費	4	4	100.0%
	特別転貸債	8	2	317.6%	支払利息	0	0	600.0%
	民間資金(建設)	5	2	317.6%				
	合 計	22	7	317.6%	合 計	22	7	317.6%
管理事業	料金収入	542	513	105.7%	維持改良費	203	126	160.8%
	民間借入金(借換)	180	128	140.9%	業務管理費	98	99	99.8%
	市中銀行借入金	40	40	100.0%	一般管理費	18	16	106.8%
	原因者負担金受入	1	1	100.0%	業務外支出	444	440	100.9%
	雑収入	1	1	102.6%	元金償還金	373	365	102.0%
	(収支差)	(193)	(238)	81.2%	市中銀行借入金償還金	40	40	100.0%
					支払利息	31	35	90.0%
				原因者負担補修費等	1	1	100.0%	
	合 計	764	682	119.4%	合 計	764	682	119.4%
その他	受託業務収入等	1	1	113.1%	受託業務費等	1	1	113.1%
	合 計	1	1	113.1%	合 計	1	1	113.1%
	総合計	786	690	114.0%	総合計	786	690	114.0%

注1) 令和4年度は当初予算額を記載しています

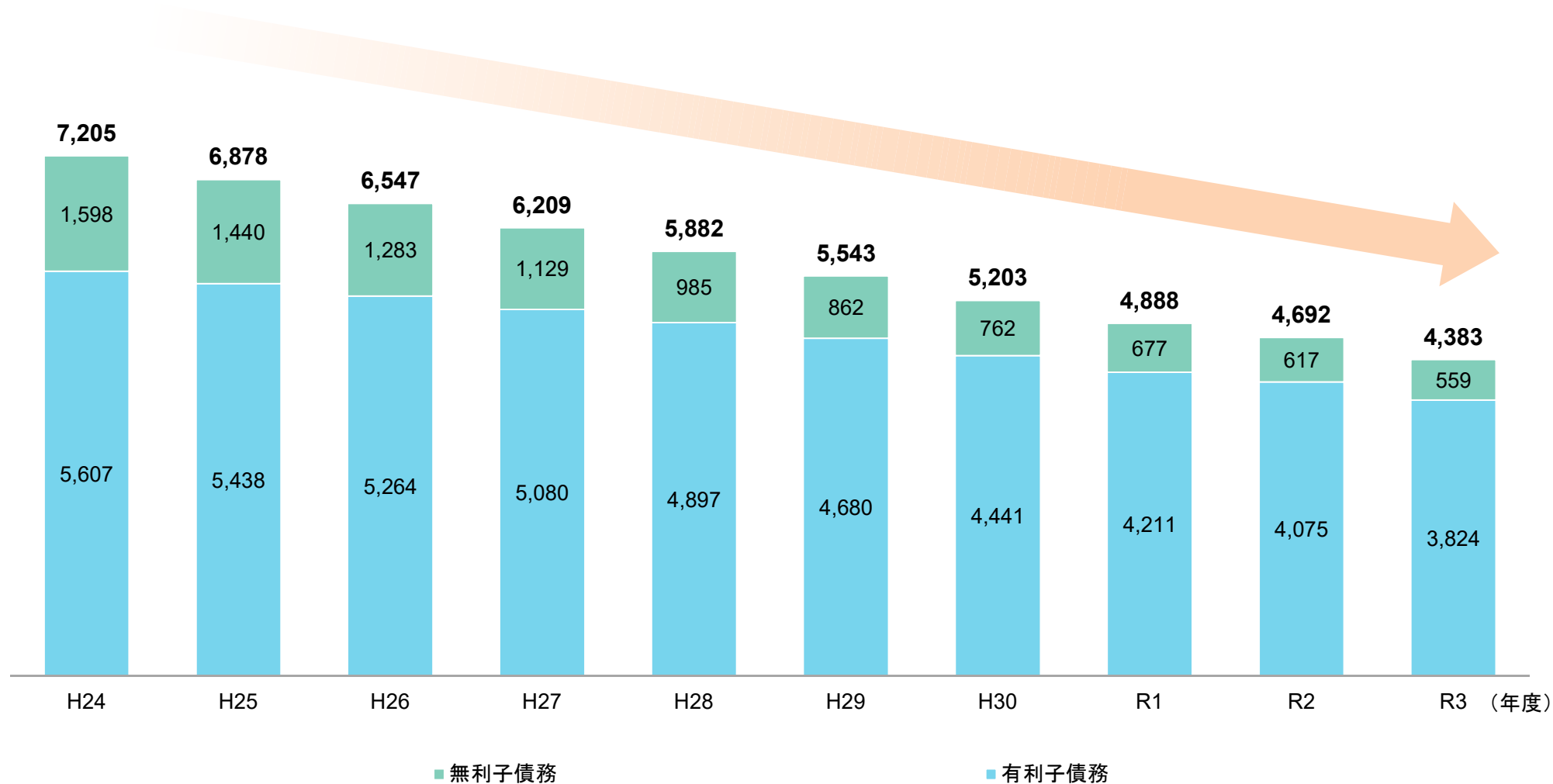
注2) 千万単位で四捨五入しているため、5千万円未満は表記上0となっています

注3) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります

債務残高の推移

- 令和3年度末の債務残高は4,383億円
- 債務残高は毎年順調に減少

(単位:億円)



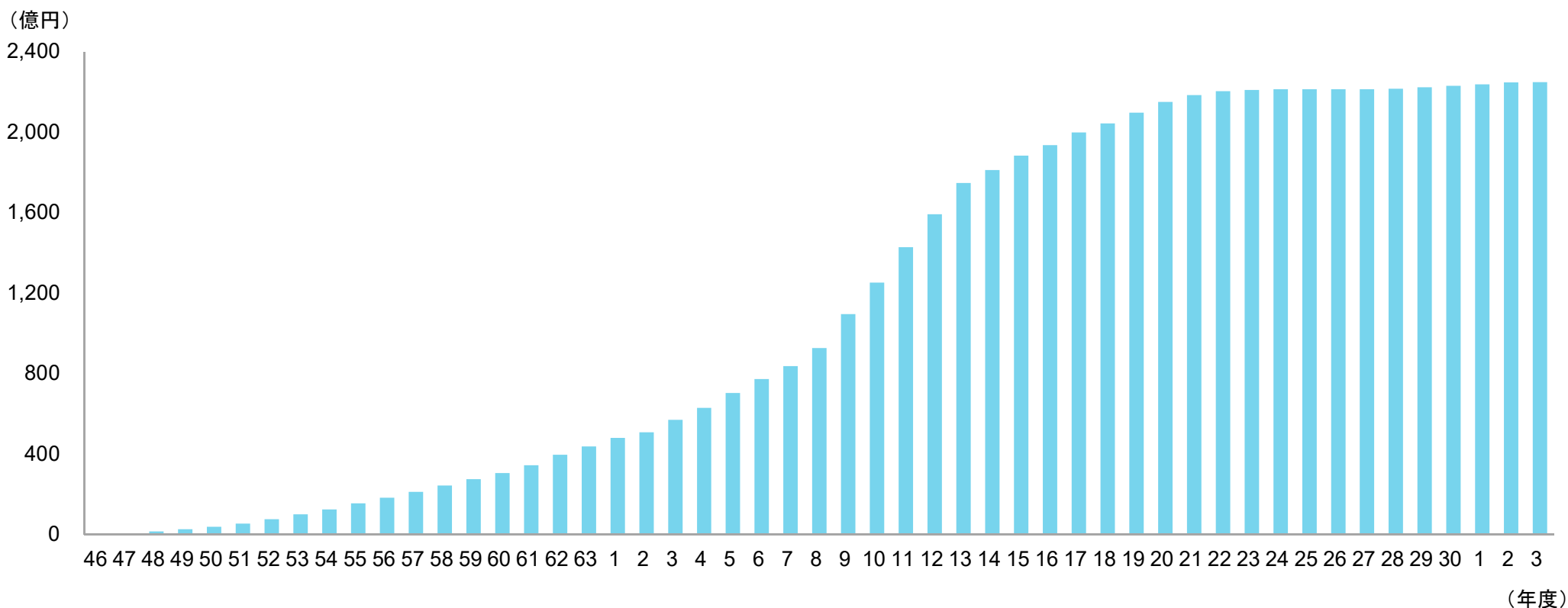
出資金

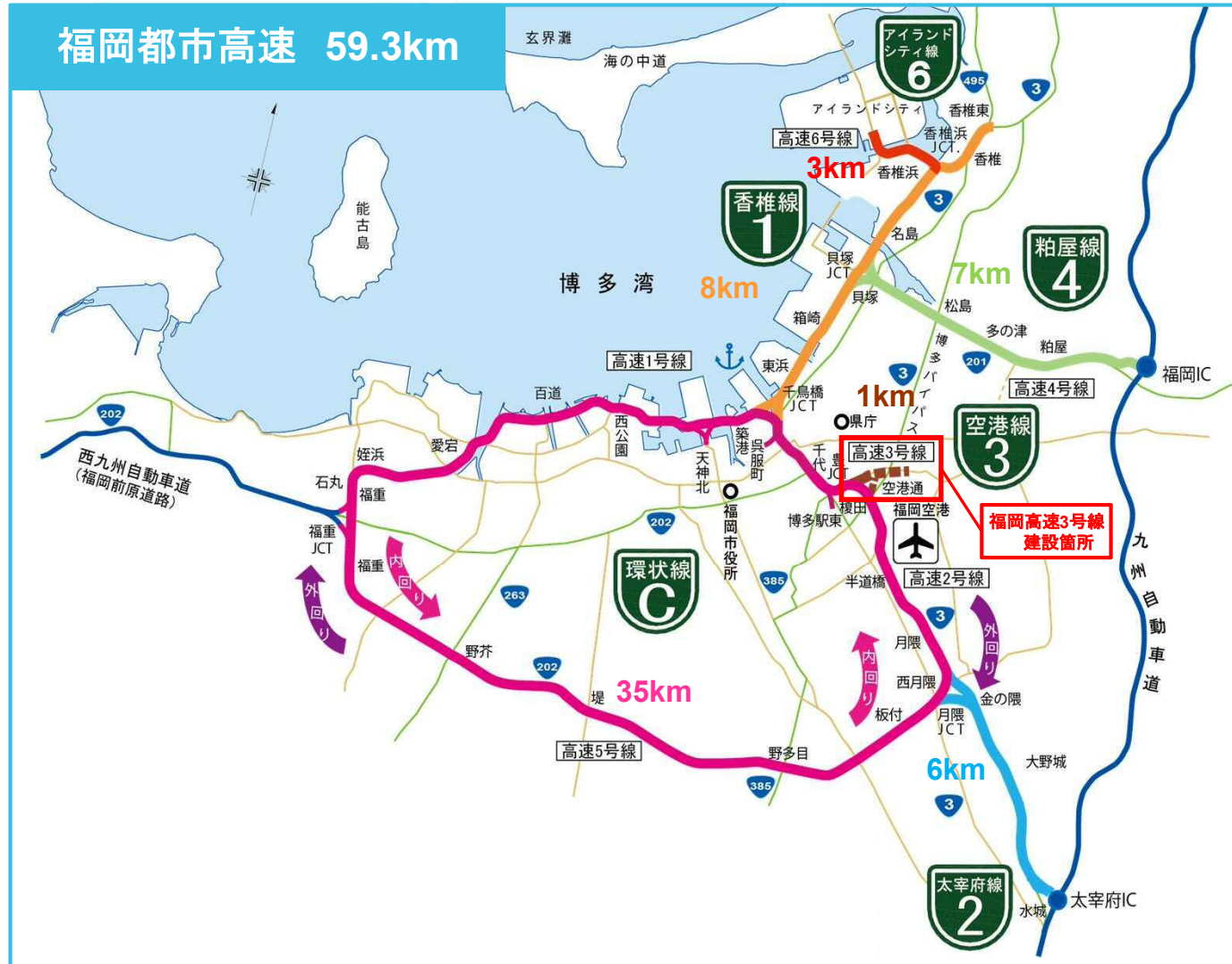
- 福岡北九州高速道路の整備に要する資金の一部は、計画的な事業執行や安定した償還が可能となるよう国の無利子貸付金とともに、地方公共団体(設立団体)の出資金により構成

(単位:億円)

出資団体別累計 (令和4年3月末現在)	出資金	地方公共団体(設立団体)		
		福岡県	福岡市	北九州市
	2,247	1,124	836	287

出資金累計(基本金)の推移





(令和4年3月末日現在)

路線図



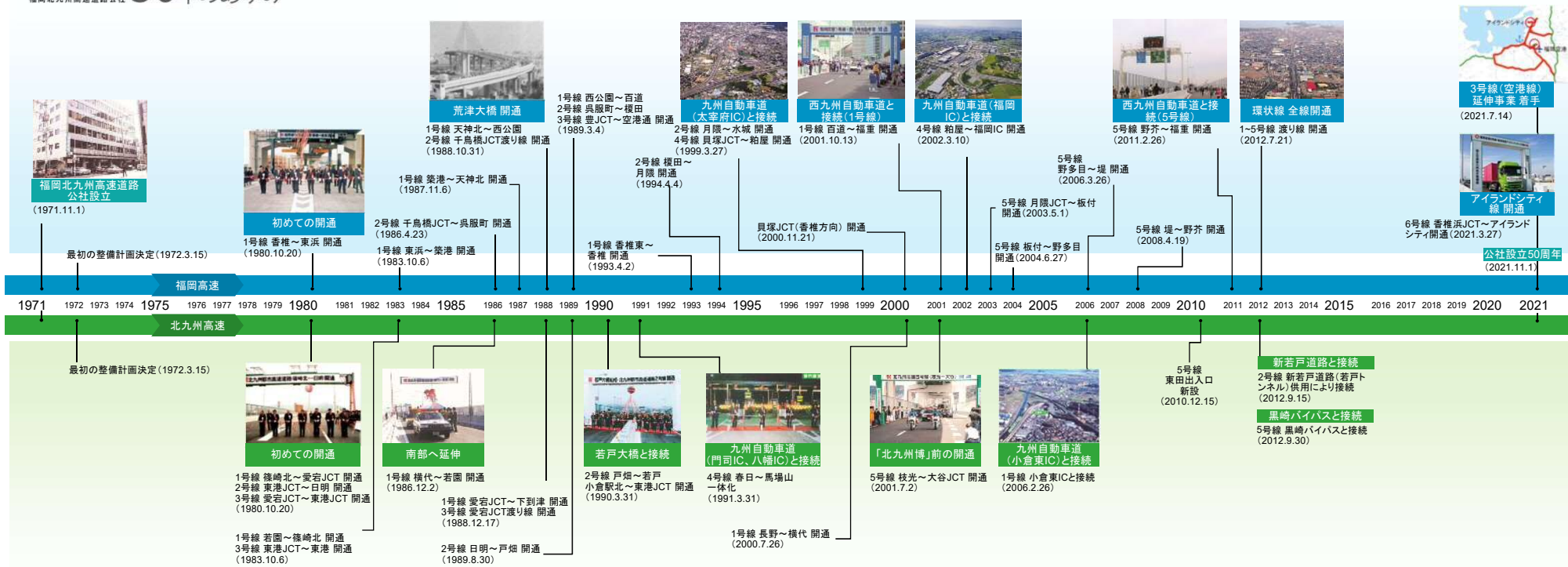
(令和4年3月末日現在)

公社50年のあゆみ

- 当公社は、交通円滑化のための都市高速道路の建設、管理を目的として、福岡県、福岡市及び北九州市の出資により、昭和46年(1971年)11月に設立され、令和3年に50周年の節目を迎えました。昭和55年(1980年)に福岡高速、北九州高速の最初の供用を開始してから、令和3年福岡高速アイランドシティ線まで順次供用を行い、都市高速は福岡、北九州あわせて延長108.8kmのネットワークに成長しました。この間都市高速をご利用いただいた約28億台のお客様をはじめ県民・市民の皆様のご理解、関係者や関係機関のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。
- 50周年キャッチコピー「あなたと街に生まれ、あなたと街を繋いでいく。」のように、この50周年を新たな出発点として、これからもお客様に満足いただけるよう、安全・安心・円滑な質の高い都市高速サービスを提供し、お客様の豊かな未来と地域社会の発展に貢献してまいります。

HISTORY 50年のあゆみ

福岡北九州高速道路公社



- 本資料は、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、債券の募集、売出し及び売買の勧誘などを目的としたものではありません。
- 本資料の中でお示した将来の見通し又は予測は、本公社として現時点で妥当と考えられる範囲内にあるものの、確実な実現を約束するものではありません。
- 債券へのご投資の判断にあたりましては、当該債券の発行などにあたり作成された最終債券内容説明書など、入手可能な直近の情報を必ずご確認ください、皆さまのご自身の責任でご判断くださいますようお願い申し上げます。

本資料に関するお問合せ先

福岡北九州高速道路公社

総務部 財務課 予算・資金係

TEL	092 - 631 - 3289(直通)
FAX	092 - 631 - 0128
URL	https://www.fk-tosikou.or.jp/